平成24年度に実施した大学機関別認証評価に関する検証結果報告書

平成26年２月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、認証評価を開放的で進化する評価とするために、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

このため、平成 17 年 1 月に文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）となって以降、はじめての経験となった平成 17 年度実施の大学機関別認証評価及び短期大学機関別認証評価において、評価の終了後、評価対象校及び評価担当者へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行った。この結果、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握でき、平成 18 年度実施の認証評価に反映させた。同様に平成 18 年度から平成 23 年度実施の大学及び短期大学の機関別認証評価においても評価終了後、アンケート調査を実施し、検証を行いそれぞれ平成 19 年度から平成 24 年度実施の認証評価に改善点等を反映させた。（この検証結果は年度ごとに「大学機関別認証評価及び短期大学機関別認証評価に関する検証結果報告書」としてまとめている。）なお、短期大学機関別認証評価は平成 23 年度をもって終了した。

平成 24 年度実施の大学機関別認証評価においても、引き続きアンケート調査を実施して検証を行うこととし、ここに平成 24 年度実施の認証評価（４大学）に関する調査及び検証結果を取りまとめた。

目　　次

はじめに

Ⅰ　機構が実施した大学機関別認証評価の概要・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　平成 24 年度実施の認証評価に関する検証

１．検証の実施方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

２．項目別の検証

（１）評価基準及び観点について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
（２）説明会・研修会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
（３）自己評価書について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
（４）書面調査・訪問調査について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
（５）評価結果（評価報告書）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
（６）評価の効果・影響について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19
（７）評価の作業量等について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
（８）前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善
について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27
（９）評価についての全般的な意見・感想について・・・・・・・・・・・・　29

３．総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30

参考資料

１　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】
２　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】
３　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
４　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
５　認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】（大学用）
６　認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】（大学用）

Ⅰ　機構が実施した大学機関別認証評価の概要

平成 24 年度に実施した認証評価の検証をまとめるに当たって、まず機構が実施した大学の機関別認証評価の概要について触れておく。

大学は、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の総合的な状況に関し、７年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務付けられている（学校教育法第 109 条、学校教育法施行令第 40 条）。

機構は、この認証評価制度の下で、大学の認証評価を行う「認証評価機関」として、平成 17 年１月、文部科学大臣から認証され、平成 17 年度より認証評価を開始した。平成 24 年度実施の認証評価は８年目の実施に当たる。なお、平成 24 年度から、機構が実施する評価の第２サイクル期間に移行した。

１．目的

認証評価は、我が国の大学の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として行った。

（１）機構が定める大学評価基準に基づいて、大学を定期的に評価することにより、大学の教育研究活動等の質を保証すること。

（２）評価結果を各大学にフィードバックすることにより、各大学の教育研究活動等の改善に役立てること。

（３）大学の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として大学が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

２．実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立大学の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる大学機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象大学の状況に応じた評価部会等を編成した。

評価部会等には、各大学の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象大学の学部等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

３．方法・プロセス

方法及びプロセスの概要は、下記のとおりである。

（１）大学における自己評価

各大学は、『自己評価実施要項』に従って、自己評価を実施し、自己評価書を作成し、機構に提出した。

（２）機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象大学から提出された自己評価書（大学の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象大学の状況を調査・分析した。

② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。

③ 基準ごとに、自己評価の状況を踏まえ、大学全体として、その基準を満たしているかどうかの判断を行い、理由を明らかにした。

なお、基準の多くが、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。基準を満たしているかどうかの判断は、その基本的な観点の分析状況を総合した上で、基準ごとに行った。

④ 基準ごとに、取組が優れていると判断される場合や、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。

⑤ 大学全体として、すべての基準を満たしている場合に、機関としての大学が機構の大学評価基準を満たしていると認め、その旨を公表した。（一つでも満たしていない基準がある場合には、大学全体として大学評価基準を満たしていないものとして、その旨を公表することとしている。）

４．スケジュール

（１）平成 23 年６月に、国・公・私立大学の関係者に対し、機関別認証評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。

（２）平成 23 年 10 月に、以下の４大学から申請を受け、評価を実施することとなった。

○ 国立大学（３大学）

長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、京都教育大学

○ 公立大学（１大学）

産業技術大学院大学

（３）平成 24 年６月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、大学評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

（４）平成 24 年６月末に、対象大学から自己評価書の提出を受けた。

（５）対象大学からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは、次のとおりであった。

24 年７月	書面調査の実施
８月	評価部会、財務専門部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
10～11 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象大学の状況を調査）
12 月	評価部会、財務専門部会の開催（評価結果（原案）の作成）

（６）これらの調査結果を踏まえ、平成 25 年１月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

（７）評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 25 年３月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

５．評価結果

平成 24 年度に認証評価を実施した４大学のすべてが、機構の定める大学評価基準を満たしているとの評価結果となった。

機構はこの評価結果を平成 25 年３月 27 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※　大学評価基準（機関別認証評価）は機構ウェブサイトを参照のこと。
http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku//index.html

Ⅱ　平成 24 年度実施の認証評価に関する検証

１．検証の実施方法

（１）アンケート調査の実施

平成 24 年度実施の認証評価の対象大学（以下「対象校」という。）及び評価担当者に対し、記名選択式回答（５段階・２段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

アンケート調査項目は次のとおりである。

〔対象校〕

１．評価基準及び観点について
２．評価の方法及び内容について
　（１）自己評価について
　（２）訪問調査等について
　（３）意見の申立てについて
３．評価の作業量、スケジュール等について
　（１）評価に費やした作業量について
　（２）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて
　（３）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
　（４）評価のスケジュールについて
４．説明会・研修会等について
５．評価結果（評価報告書）について
　（１）評価報告書の内容等について
　（２）自己評価書及び評価報告書の公表について
　（３）評価結果に関するマスメディア等の報道について
６．評価を受けたことによる効果・影響について
　（１）自己評価を行ったことによる効果・影響について
　（２）機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について
７．評価結果の活用について
８．評価の実施体制について
９．前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について
10．前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて
11．その他

〔評価担当者〕

１．評価基準及び観点について

２．評価の方法及び内容・結果について

（１）自己評価書について

（２）書面調査について

（３）訪問調査について

（４）評価結果について

３．研修について

４．評価の作業量、スケジュール等について

（１）評価に費やした作業量について

（２）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

（３）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

（４）評価作業にかかった時間数について

５．評価部会等の運営について

６．評価全般について

７．前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

８．その他

（２）アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査項目から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

（１）評価基準及び観点について

（２）説明会・研修会について

（３）自己評価書について

（４）書面調査・訪問調査について

（５）評価結果（評価報告書）について

（６）評価の効果・影響について

（７）評価の作業量等について

（８）前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について

（９）評価についての全般的な意見・感想について

※アンケート調査に係る補足事項

１．アンケート用紙配付日程

	平成 24 年度
対象校	平成 25 年３月 27 日
評価担当者	平成 24 年 12 月 25 日

２．平成 24 年度アンケートの回収状況

	回答数	回収率
対象校	４校中４校	100％
評価担当者	15 人中９人	60％

２．項目別の検証

（１）評価基準及び観点について

機構が定める評価基準及び観点の構成や内容が、大学の教育研究活動等に関する「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして適切であったか、また、評価基準及び観点の中で対象校が自己評価を行う際に評価しにくいもの、評価担当者が評価しにくいものがあったかどうかなどについて検証を行った。

① 評価の目的等との関係について

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、評価基準及び観点の構成や内容が「教育研究活動等の質を保証するために適切であった」（機関１-①、評１-①※）か質問したところ、対象校からは「そう思う」が４校、評価担当者からは肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）であった。また、「教育研究活動等の改善を促進するために適切であった」（機関１-②、評１-②）か質問したところ、対象校からは「強くそう思う」が１校、「そう思う」が３校、評価担当者からは肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」22%、「そう思う」78%）であった。また、「教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった」（機関１-③、評１-③）かとの質問に対しては、対象校では「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が２校、評価担当者では肯定的な回答が 55%（「強くそう思う」11%、「そう思う」44%）、「どちらとも言えない」が 44%であった。

次に、評価基準及び観点の構成や内容を「教育活動を中心に設定していることは適切であった」（機関１-④、評１-④）かとの質問に対しては、対象校では「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校、評価担当者では肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」44%、「そう思う」56%）であった。

② 具体の評価基準及び観点について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価しにくい評価基準又は観点があった」（機関１-⑤）か質問したところ、「ない」が４校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「評価しにくい評価基準又は観点があった」（評１-⑤）か質問したところ、「ある」が 33%、「ない」が 67%であった。

次に、対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「内容が重複する評価基準又は観点があった」（機関１-⑥、評１-⑥）か質問したところ、対象校では、

※「機関〇-〇」…参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】」における設問番号に対応
「評〇-〇」…参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】」における設問番号に対応
設問の回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が 100%にならないものもある。また、未回答は除いている。

「ある」が２校、「ない」が２校、評価担当者では、「ある」が 25%、「ない」が 75%であった。

③ 評価と課題

評価基準及び観点の構成や内容は、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、大学の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」という評価の目的に照らして適切なものと考えられる。また、評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることや、大学の教育研究活動等の「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らしても、おおむね適切であると考えられる。

評価しにくい、あるいは、内容が重複する評価基準又は観点があったかについては、一部の対象校及び評価担当者から「ある」との回答も寄せられており、具体的に重複を指摘する意見や明確さを求める意見が寄せられている。自由記述においても、観点５－５－④の記述がわかりにくいとの意見が寄せられており、平成 26 年度実施分の認証評価から『自己評価実施要項』の留意点の表現を修正することで対応している。また、機構では、評価基準及び観点に対する評価のしにくさや重複感の解消のため、『自己評価実施要項』において観点ごとの留意点や根拠資料例を示すなどの取組を行っているが、平成 24 年度実施分からの新しい観点の内容については、まだ大学関係者間での理解が進んでいないのではないかとの意見もあり、今後も、説明会等で対象校等の理解を深める必要があると考えられる。

（２）説明会・研修会について

大学の関係者を対象に実施している説明会や、機構の評価を希望する大学の自己評価担当者等を対象に実施している研修会について、その有効性等の検証を行った。また、評価担当者を対象に実施している研修の内容の適切性等について検証を行った。

① 認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会について

対象校に対するアンケート調査において、認証評価説明会に関して、「説明会の内容は役立った」（機関４-③）か質問したところ、「そう思う」が３校で、「どちらとも言えない」が１校であった。また、「説明会の内容は理解しやすかった」（機関４-②）かとの質問については、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校、「説明会の配付資料は理解しやすかった」（機関４-①）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校であった。

次に、自己評価担当者等に対する研修会に関して、「自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った」（機関４-⑥）か質問したところ、「そう思う」が３校で、「どちらとも言えない」が１校であった。また、「自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった」（機関４-⑤）かとの質問については、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校、「自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった」（機関４-④）かとの質問については、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校であった。なお、「機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った」（機関４-⑦）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校であった。

さらに、訪問説明に関して、「機構が行った訪問説明は役立った」（機関４-⑧）か質問したところ、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、「説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応）は適切であった」（機関４-⑨）かとの質問については、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校であった。

② 評価担当者に対する研修について

評価担当者に対するアンケート調査において、評価担当者に対する研修に関して、「研修の内容は役立った」（評３-③）か質問したところ、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」22%、「そう思う」78%）であった。また、「研修の説明内容は理解しやすかった」（評３-②）かとの質問については、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」44%、「そう思う」56%）であった。また、「研修の配付資料は理解しやすかった」（評３-①）かとの質問については、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」22%、「そう思う」78%）であった。また、「自己評価書のサンプルの提示は役立った」（評３-④）かについては、肯定的な回答が 89%（「強くそう思う」22%、「そう

思う」67%)、「どちらとも言えない」が 11%であった。また、「研修に費やした時間の長さは適切であった」(評３-⑤) か質問したところ、肯定的な回答が 100%(「強くそう思う」22%、「そう思う」78%) であった。

③ 評価と課題

認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会については、対象校からおおむね肯定的に評価されており、実施内容、説明内容、配付資料のほか、機構の事務担当者の対応等は適切であると考えられる。

また、評価担当者に対する研修についても、評価担当者から肯定的に評価されており、実施内容、説明内容、配付資料のほか、自己評価書のサンプルの提示、実施時間は適切であると考えられる。

（３）自己評価書について

評価の実施に当たり対象校が作成した自己評価書が、機構の定める評価基準及び観点に基づき、評価を行う上で適切なものとなっていたか、また、添付資料が適切であったかなどについて検証を行った。

① 自己評価書の記述について

対象校に対するアンケート調査において、「評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた」（機関２－（１）－①）か質問したところ、「そう思う」が４校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた」（評２－（１）－②）かとの質問については、肯定的な回答が 33%（「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が 56%、否定的な回答が 11%（「そう思わない」11%）であった。

また、対象校に対するアンケート調査において、「貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた」（機関２－（１）－④）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が２校であった。また、「自己評価書の完成度は満足できるものであった」（機関２－（１）－⑤）かとの質問については、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「対象校の自己評価書は理解しやすかった」（評２－（１）－①）か質問したところ、肯定的な回答が 44%（「そう思う」44%）、「どちらとも言えない」が 22%、否定的な回答が 33%（「そう思わない」33%）であった。

また、「自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった」（機関２－（１）－⑥）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校であった。

このほか、「自己評価書の作成に当たって、既に機構の認証評価を受けた他大学等の自己評価書を参考にした」（機関２－（１）－⑦）かとの質問については、「参考にした」２校、「参考にしなかった」が２校であった。

② 自己評価書の添付資料について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた」（機関２－（１）－②）か質問したところ、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校、「そう思わない」が１校であった。また、「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」（機関２－（１）－③）かとの質問については、「迷っていない」とする回答が３校、「迷った」とする回答が１校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた」（評

２-（１）-③）か質問したところ、肯定的な回答が 44%（「そう思う」44%）、「どちらとも言えない」が 11%、否定的な回答が 44%（「そう思わない」44%）であった。

③ 評価と課題

自己評価書の記述について、対象校では、評価基準及び観点に基づいた適切な自己評価により、わかりやすく完成度の高い自己評価書が作成されたとおおむね認識している。一方、評価基準及び観点の内容が自己評価書に適切に記述されていたかについては、評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多いとは言えず、理解しやすさについても一部の評価担当者から否定的な回答が寄せられており、自由記述においても、特にスリーポリシーズ（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）に関して、中央教育審議会答申の考え方をもっと研究すべきという意見が寄せられている。機構においては、より適切な自己評価書作成のために、『自己評価実施要項』の留意点を一部改訂することで対応しているが、第２サイクル１年目（平成 24 年度）の評価の実施状況も踏まえ、今後も説明会等において理解を深めるよう説明を工夫する必要がある。また、自己評価書作成に当たっての字数制限については、対象校からおおむね肯定的に評価されており、適切な量であったと考えられる。このほか、自己評価書の作成に当たり、半数の対象校が既に機構の認証評価を受けた他大学の自己評価書を参考としていることがわかる。

また、自己評価書の添付資料については、一部の対象校から、どのようなものを用意すればよいか迷った、既に蓄積していたもので対応することができなかったとの回答が寄せられており、自己評価書に十分な根拠資料が引用・添付されていたかについては、一部の評価担当者から否定的な回答が寄せられている。自由記述においても、評価担当者から、提示された資料が間違っていたり、データ記述に食い違いがあったり、自己評価書提出に際して複数の人間がチェックしていればこのような問題は起こり得ないはずであるという意見が寄せられている。機構としても、必要とする資料については『自己評価実施要項』の【根拠資料・データ例】で示す、当初の資料で確認できない場合は必要に応じ「確認事項」で求めるなど工夫しているが、引き続き添付資料の明確化に努め、説明会等で対象校の理解を深めるとともに、対象校においても、データの収集方法やその管理方法の工夫、提出前の複数人による再チェックが望まれる。

（４）書面調査・訪問調査について

対象校から提出された自己評価書等に基づき、評価部会において評価担当者が対象校の状況を分析する書面調査について、分析の方法、事実誤認の有無を確認するために通知する「書面調査による分析状況」の内容が適切であったかについて検証した。また、書面調査の後、対象校を訪問して書面調査では確認できない事項等を中心に調査する訪問調査について、その内容や方法、あらかじめ通知する「訪問調査時の確認事項」の内容が適切であったかなどについて検証を行った。

① 書面調査による分析について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった」（機関２－（２）－①）か質問したところ、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、評価担当者に対するアンケート調査において、書面調査の分析内容を記入するために「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」（評２－（２）－①）か質問したところ、肯定的な回答が 89%（「強くそう思う」11%、「そう思う」78%）、「どちらとも言えない」が 11%であった。また、「書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった」（評２－（２）－②）か質問したところ、「どちらとも言えない」が 67%、否定的な回答が 33%（「そう思わない」11%、「全くそう思わない」22%）であった。

② 訪問調査時の確認事項について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった」（機関２－（２）－②）か質問したところ、「そう思う」が４校であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった」（評２－（３）－①）か質問したところ、肯定的な回答が 67%（「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が 33%であった。

③ 訪問調査の実施内容について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く）が質問した内容は適切であった」（機関２－（２）－③）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、「訪問調査の実施内容として、大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった」（機関２－（２）－④）かとの質問については、「強くそう思う」

が２校、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校、「訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった」（機関２－（２）-⑤）かについては、「強くそう思う」が２校、「そう思う」が２校、「訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった」（機関２－（２）-⑥）かについては、「そう思う」が３校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査の実施内容として、大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった」（評２－（３）-③）か質問したところ、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」63%、「そう思う」38%）、「訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった」（評２－（３）-④）かについては、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」38%、「そう思う」63%）、「訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった」（評２－（３）-⑤）かについては、肯定的な回答が 88%（「強くそう思う」25%、「そう思う」63%）、否定的な回答が 13%（「そう思わない」13%）であった。また、「訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた」（評２－（３）-②）かについては、肯定的な回答が 89%（「強くそう思う」11%、「そう思う」78%）、「どちらとも言えない」が 11%であった。

さらに、対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査では、機構の評価担当者（事務担当者を除く）との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた」（機関２－（２）-⑦）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」２校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた」（評２－（３）-⑥）かとの質問については、肯定的な回答が 100%（「そう思う」100%）であった。

④ 訪問調査時の人数・構成等について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった」（機関２－（２）-⑧）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校であった。また、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった」（評２－（３）-⑦）か質問したところ、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」13%、「そう思う」88%）であった。

次に、対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）は十分に研修を受けていたと思う」（機関２－（２）－⑨）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校であった。

また、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった」（評２－（３）－⑧）か質問したところ、肯定的な回答が 100％（「強くそう思う」50％、「そう思う」50％）であった。

⑤ 評価と課題

書面調査による分析については、対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、訪問調査前に提示された「書面調査による分析状況」の内容や、機構が示した書面調査票等の様式は適切であると考えられる。また、書面調査に際して、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかったとの意見は寄せられておらず、自己評価書及び添付資料で十分であると考えられていることがわかる。

一方、訪問調査についても、対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、訪問調査前に提示した「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する対象校からの回答内容、訪問調査時の評価担当者による質問内容や訪問調査の具体的な実施内容や方法、時間配分、評価担当者の人数や構成、機構の事務担当者の対応は適切であると考えられる。また、訪問調査によって不明な点を十分に確認することができ、機構の評価担当者と対象校との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができているとともに、評価担当者への研修についても適切であると考えられる。

（５）評価結果（評価報告書）について

機構の作成した評価報告書の内容や意見の申立ての実施方法等が適切なものであったかについて検証を行った。

① 評価報告書の内容について

対象校に対するアンケート調査において、「総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった」（機関５－（１）－⑨）か質問したところ、「そう思う」が４校であった。

次に、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった」（機関５－（１）－①）か、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった」（機関５－（１）－②）か、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった」（機関５－（１）－③）か質問したところ、「質の保証」については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校、「改善の促進」については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校、「社会からの理解と支持」については、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、「評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた」（機関５－（１）－⑦）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が３校であった。

次に、「評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった」（機関５－（１）－④）か質問したところ、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校、「評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった」（機関５－（１）－⑤）かとの質問については、「そう思う」が４校、「評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度等）を考慮したものであった」（機関５－（１）－⑥）か質問したところ、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校、「そう思わない」が１校であった。

さらに、評価報告書の記述について、「評価報告書及び構成や内容はわかりやすいものであった」（機関５－（１）－⑧）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「そう思わない」が１校であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された」（評２－（４）－①）か質問したところ、肯定的な回答が 100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）であった。

次に、「基準１から基準 11 の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった」（評２－（４）－②）か質問したところ、肯定的な回答が 77%（「強くそう思う」44%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が 22%、「評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」「主な改

善を要する点」を記述するという形式は適切であった」（評２－（４）－④）かとの質問については、肯定的な回答が 88%（「強くそう思う」44%、「そう思う」44%）、「どちらとも言えない」が 11%であった。

また、「評価結果全体としての分量は適切であった」（評２－（４）－③）か質問したところ、肯定的な回答が 89%（「強くそう思う」33%、「そう思う」56%）、「どちらとも言えない」が 11%であった。

② 評価報告書等の公表について

対象校に対するアンケート調査において、「今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイト等で公表している」（機関５－（２）－①）か質問したところ、「公表している」が４校であった。

また、「評価報告書をウェブサイト等で公表している」（機関５－（２）－②）かとの質問については、「公表している」が４校であった。

次に、「評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた」（機関５－（３）－①）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

④ 意見の申立てについて

対象校に対するアンケート調査において、「意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった」（機関２－（３）－①）か質問したところ、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、「「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載したことは適切であった」（機関２－（３）－②）かとの質問については、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校、「そう思わない」が１校であった。

次に、「貴校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった」（機関２－（３）－③）かとの質問については、「そう思う」が１校であった。

⑤ 評価と課題

評価報告書の内容については、対象校からおおむね肯定的に評価されており、教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的や対象校の目的、実態、規模等に照らして適切なものであると考えられる。また、評価報告書は構成及び内容がわかりやすく、評価担当者の書面調査、訪問調査の内容が評価結果に十分反映されており、評価の方法や記述形式、全体の分量もおおむね適切であり、教育研究活動等に関して新たな視点が得られるなど、総じて内容は適切なものであると考えられる。一方、自由記述において、評価担当者から、評価結果がさほど改善につながらないという大学側の声もあり、もう少し積極的に

「改善を要する点」の範囲を広げていくことも必要との意見が寄せられているため、「改善が望ましい点」等を評価結果報告書の本文中に記載することとした。

評価報告書等の公表については、すべての対象校が今回の評価のために作成した自己評価書や評価報告書をウェブサイト等で公表している。評価結果に関するマスメディア等からの報道の適切性については、対象校からおおむね肯定的な回答が寄せられているものの、認証評価の社会的認知度の向上については、今後、認証評価機関 12 機関により組織される認証評価機関連絡協議会を通じ、他の認証評価機関とも協力して、更に工夫を行っていく必要がある。なお、平成 25 年度は、認証評価機関連絡協議会において、報道関係者及び高等学校関係者との意見交換会を実施した。

意見の申立てについては、対象校からおおむね肯定的に評価されており、その実施方法やスケジュール、意見の申立ての内容及びその対応を評価報告書に掲載したこと、機構の対応は適切であると考えられる。

（６）評価の効果・影響について

今回の評価のために自己評価を実施したことや評価結果を受けたこと、対象校に対して評価を実施したことがどのような効果・影響を与えたか、また評価結果をどのように活用しているかについて検証を行った。

① 自己評価を行ったことによる効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、認証評価を受けるに当たって自己評価を行ったことによる効果・影響について、「貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた」（機関６－（１）－①）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が３校、「貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた」（機関６－（１）－②）か質問したところ、「強くそう思う」が２校、「そう思う」が２校であった。

次に、教職員への効果・影響について、「教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した」（機関６－（１）－③）か質問したところ、「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が３校、「各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した」（機関６－（１）－④）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が３校、「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した」（機関６－（１）－⑨）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が２校であった。

また、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した」（機関６－（１）－⑩）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が２校であった。

さらに、「貴校の教育研究活動等の改善を促進した」（機関６－（１）－⑤）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が３校、「貴校のマネジメントの改善を促進した」（機関６－（１）－⑦）かとの質問については、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、「貴校の個性的な取組を促進した」（機関６－（１）－⑧）かとの質問については、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が２校であり、「貴校の将来計画の策定に役立った」（機関６－（１）－⑥）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校であった。

② 評価結果を受けたことによる効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、評価結果を受けて今後どのような効果・影響があると思うかについて質問したところ、「貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる」（機関６－（２）－①）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が３校、「貴校の教育研究活動等の今後の課題を

把握することができる」（機関６－（２）－②）かとの質問については、「強くそう思う」が２校、「そう思う」が２校であった。

次に、教職員の意識への効果・影響について質問したところ、「教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する」（機関６－（２）－③）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校、「各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する」（機関６－（２）－④）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が３校、「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する」（機関６－（２）－⑨）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する」（機関６－（２）－⑪）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が２校であった。

また、「教職員に評価結果の内容が浸透する」（機関６－（２）－⑩）か質問したところ、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校であった。

次に、「貴校の将来計画の策定に役立つ」（機関６－（２）－⑥）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校であり、「貴校の個性的な取組を促進する」（機関６－（２）－⑧）かとの質問については、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が２校であった。

また、「貴校の教育研究活動等の質が保証される」（機関６－（２）－⑫）かとの質問については、「そう思う」が４校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う」（評６－①）か質問したところ、肯定的な回答が 89%（「強くそう思う」11%、「そう思う」78%）、「どちらとも言えない」が 11%であった。

さらに、対象校に対するアンケート調査において、「貴校の教育研究活動等の改善を促進する」（機関６－（２）－⑤）かとの質問については、「強くそう思う」が１校、「そう思う」が３校、「貴校のマネジメントの改善を促進する」（機関６－（２）－⑦）か質問したところ、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が２校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う」（評６－②）か質問したところ、肯定的な回答が 78%（「強くそう思う」11%、「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が 22%であった。

次に、対象校に対するアンケート調査において、「学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる」（機関６－（２）－⑬）か質問したところ、「どちらとも言えない」が４校であり、「広く社会の理解と支持が得られる」（機関６－（２）－⑭）かとの質問については、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって社会

の理解と支持が支援・促進されると思う」（評６-③）か質問したところ、肯定的な回答が 55%（「強くそう思う」11%、「そう思う」44%）、「どちらとも言えない」が 22%、否定的な回答が 22%（「そう思わない」22%）であった。

また、「他大学の評価結果から優れた取組を参考にする」（機関６-（２）-⑮）かとの質問については、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校であった。

③ 評価結果の活用について

対象校における今後の評価結果の活用予定について質問（複数回答可）したところ、「貴校のウェブサイトで評価結果を公表する」が 100%であった。

また、機構の評価を受けたことを契機に、実施を予定している（または実施済みの）変更・改善の取組として、対象校から次の事例が挙げられた。なお、文末【　】内の数字は、変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度を５段階で対象校が示したものである。

【５：非常に参考になった～３：参考になった～１：あまり参考にならなかった】

（基準４）「学生の受入」

・（課題）入学定員超過率（大学院）
　（変更・改善）改善に向けて検討している。【４】

（基準５）「教育内容及び方法」

・（課題）主体的学習の促進という観点から、予習・復習時間が相対的に少ない。
　（変更・改善）学生の主体的な学習の促進について検討を行うこととしている。【４】
・（課題）大学院課程において学位論文に係る評価基準が明文化されていなかった。
　（変更・改善）平成 24 年 11 月 14 日付けで「学位規則」及び「学位審査取扱規程」の改正を行い、学位論文の審査基準を明文化し、学生に周知した。【５】
・（課題）大学院課程においては、成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が十分に講じられているとは言い難い。
　（変更・改善）大学院の一つの専攻において、教育の質保証に関する自己点検・評価を平成25年３月に実施した。その中で指摘された課題にも対応している。今後、すべての専攻で実施する予定である。【５】
・（課題）単位の実質化
　（変更・改善）取得単位数の上限を見直す方向で検討している。【４】

（基準６）「学習成果」

・（課題）「英語力」については、プレースメントテストでのクラス分けに応じた学習、ＴＯＥＩＣの試験機会の増加、理工学に直結した教育課程の開発等の取組を行っており、その成果については今後の向上に期待したい。
（変更・改善）現在の取組を継続し、成果の検証を行うこととしている。【３】
・（課題）修了生に対する体系的・組織的な意見聴取が行われていない。
（変更・改善）本学修了後も継続的に使用できるビデオ講義受講制度やアンケート等を活用し意見聴取できる仕組みの整備を検討している。　【５】

（基準８）「教育の内部質保証システム」
・（課題）自己点検・評価に必要な教育活動に関する資料やデータについては、継続的に収集・蓄積・分析する体制の構築が必要である。
（変更・改善）本学における「教育の質保証室」の設置及び自己点検・評価委員会の活動内容の充実等により、教育活動に関する資料やデータについて継続的に収集・蓄積・分析する体制の構築を整備している。【５】

④ 評価と課題

自己評価を行ったことによる効果・影響については、対象校からおおむね肯定的に評価されており、教育研究活動等の全般的な状況や今後の課題の把握及び改善の促進、評価に関する教職員の知識や技術の向上、自己評価の重要性の教職員への浸透、マネジメントの改善や個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与に有効であると考えられる。一方、組織的な運営の重要性の教職員への浸透、各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上するといった効果・影響については、対象校からの肯定的な回答は必ずしも多いとは言えない。また、自由記述において、自己評価を行うためには組織的な体制での継続的な活動が必要となるため、自己評価を定期的に実施することは、長期的な教育改善活動の体制作りをする上で効果的であるという意見も寄せられており、今後、評価直後の効果・影響のほかに、長期的な評価の効果・影響についても把握、検証していく必要がある。

一方、評価結果を受けたことによる効果・影響については、対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、教育研究活動等の全般的な状況や今後の課題の把握、改善の促進、組織的な運営及び自己評価の重要性や評価結果の内容の教職員への浸透、評価に関する教職員の知識や技術向上、マネジメントの改善や個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与や質の保証のほか、社会からの理解と支持を得るといったことに有効であると考えられる。また、他大学の評価結果から優れた取組を参考にしようとすることにもおおむね効果・影響があると考えられる。一方、各教員の教育研究活動等に取り組む意識の向上、学生からの理解と支持を得るといった効果・影響については、対象校から「どちらとも言えない」との回答が

多く寄せられており、自己評価を行ったことによる効果・影響と同様に、評価直後の効果・影響だけではなく、長期的な評価の効果・影響についても併せて把握、検証していく必要がある。

評価結果の活用については、対象校から具体的な改善取組事例が挙げられ、対象校が評価結果を基に実際に教育研究活動等の改善・向上に取り組んでいることがわかる。今後も引き続き、機構及び対象校の相互の取組により、各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要であると考えられる。

（７）評価の作業量等について

今回の評価の実施に係る作業量や作業期間がどうであったかを対象校、評価担当者の双方について検証を行った。

① 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の作成」（機関３－（１）－①）に関して、作業量については、「とても大きい」とする回答が３校、「大きい」とする回答が１校であった。

次に、「訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応」（機関３－（１）－②、機関３－（２）－①）に関して、作業量については、「大きい」とする回答が４校であった。また、作業期間については、２～３週間程度の期間を設けているが、これについて「長い」とする回答が１校、「適当」が２校、「短い」とする回答が１校であった。

続いて、「訪問調査のための事前準備」（機関３－（１）－③、機関３－（２）－②）に関して、作業量については、「とても大きい」とする回答が１校、「大きい」とする回答が２校、「適当」が１校であった。また、作業期間については、４週間程度の期間を設けているが、これについて「長い」とする回答が１校、「適当」が２校であった。

次に、「訪問調査当日の対応」（機関３－（１）－④、機関３－（２）－③）に関して、作業量については、「とても大きい」とする回答が１校、「大きい」とする回答が２校、「適当」が１校であった。また、作業期間については、１校当たり２日間の日程としているが、これについて「長い」とする回答が１校、「適当」が２校であった。

さらに、「意見の申立て」（機関３－（１）－⑤）に関して、作業量については、「適当」が４校であった。また、作業期間については、４週間程度の期間を設けているが、これについて「適当」が３校であった。

評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書の書面調査」（評４－（１）－①、評４－（２）－①）に関して、作業量については、評価担当者１人当たり平均で 34.6 時間と回答されているが、これについて「大きい」とする回答が 44%（「とても大きい」11%、「大きい」33%）、「適当」が 56%であった。また、作業期間については、７月からの１か月程度の期間を設定しているが、これについて「適当」が 78%、「短い」とする回答が 22%（「短い」22%）であった。

次に、「訪問調査への参加」（評４－（１）－②、評４－（２）－②）では、作業量については、事前準備については評価担当者１人当たり平均で時間 5.7 時間と回答されているが、これについて「大きい」とする回答が 13%（「大きい」13%）、「適当」が 75%、「小さい」とする回答が 13%（「小さい」13%）であった。また、作業期間については、１校当たり２日間の日程としているが、これについて「長い」とする回答が 13%（「長い」13%）、「適当」が 63%、「短い」とする回答が 25%（「短い」

25%）であった。

さらに、「評価結果（原案）の作成」（評４－（１）－③、評４－（２）－③）では、作業量については、評価担当者１人当たり平均で 6.9 時間と回答されているが、これについて「大きい」とする回答が 11%（「とても大きい」11%）、「適当」が 89%であった。また、作業期間については、「適当」が 100%であった。

② 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

対象校に対するアンケート調査において、評価作業に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったかについて質問したところ、「貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった」（機関３－（３）－①）かとの質問については、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校、「貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった」（機関３－（３）－②）かとの質問については、「そう思う」が３校、「どちらとも言えない」が１校、「貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった」（機関３－（３）－③）かとの質問ついては、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が２校であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、評価作業に費やした労力が「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったかについて質問したところ、「対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった」（評４－（３）－①）かとの質問については、肯定的な回答が 78%（「そう思う」78%）、「どちらとも言えない」が 22%、「対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった」（評４－（３）－②）かとの質問については、肯定的な回答が 78%（「そう思う」78%）、「どちらとも言えない」が 22%、「対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった」（評４－（３）－③）かとの質問については、肯定的な回答が 56%（「そう思う」56%）、「どちらとも言えない」が 33%、否定的な回答が 11%（「そう思わない」11%）であった。

③ 評価のスケジュールについて

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の提出時期（６月末）は適当であった」（機関３－（４）－①）かとの質問については、「適当」が３校であった。

また、「訪問調査の実施時期（10 月～11 月）は適当であった」（機関３－（４）－②）かとの質問については、「適当」が３校であった。

④ 評価と課題

評価に費やした対象校の作業期間については、おおむね肯定的に評価されており、

適切であると考えられる。また、作業量については、意見の申立ては肯定的に評価されており適切であると考えられるが、自己評価書の作成や「訪問調査時の確認事項」への対応、訪問調査のための事前準備、訪問調査当日の対応に係る作業量については、大きいとする回答が多く、自由記述においても、認証評価は７年に１度のため、ノウハウの蓄積も難しく、作業の負担は大きかったとの意見が寄せられている。一方、対象校が評価作業に費やした労力は、おおむね肯定的に評価されており、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったと考えられる。これらのことから、対象校は、自己評価書作成等に費やす作業に対して負担を感じているものの、評価に費やす労力は、評価の目的におおむね見合うと考えていることがわかる。機構では、平成 24 年度実施分からの『自己評価実施要項』において、観点ごとの「分析する際の留意点及び根拠資料・データ等例」として、期待される根拠資料等の例示や提出必須データの整理を行うなどの取組を行っているが、今後も引き続き、評価の効率化に努める必要がある。

また、評価に費やした評価担当者の作業量及び作業期間については、おおむね肯定的に評価されてるが、書面調査に係る作業量については、大きいとする回答も寄せられている。一方、評価担当者が評価に費やした労力は、おおむね肯定的に評価されており、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったと考えられる。これらのことから、評価担当者は、評価に費やす作業に対して負担を感じているものの、評価に費やす労力は、評価の目的におおむね見合うと考えていることがわかる。今後も引き続き、評価担当者の負担軽減を図る必要がある。

評価のスケジュールについては、対象校から肯定的に評価されており、自己評価書の提出時期及び訪問調査の実施時期はいずれも適切であると考えられる。

（８）前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について

前回の認証評価を受けたことが対象校にどのような効果・影響を与えたか、また対象校が前回の認証評価を受けた時と比較して、当機構の認証評価プロセスが改善されたかどうかについて検証を行った。

① 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、前回の認証評価を受けたことによりどのような効果・影響があったかについて、「教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった」（機関９-①）か、「教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった」（機関９-②）か、「教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった」（機関９-③）か質問したところ、「質の保証」については、「強くそう思う」が１校、「どちらとも言えない」が２校、「改善の促進」については、「強くそう思う」１校、「そう思う」が２校、「社会からの理解と支持」については、「どちらとも言えない」が３校であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、前回の認証評価を受けたことによりどのような効果・影響があったかについて、「教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった」（評７-①）か、「教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった」（評７-②）か、「教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった」（評７-③）か質問したところ、「質の保証」については、肯定的な回答が 33%（「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が 67%、「改善の促進」については、肯定的な回答が 50%（「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が 50%、「社会からの理解と支持」については、「どちらとも言えない」が 80%、否定的な回答が 20%（「そう思わない」20%）であった。

② 前回の認証評価を受けた時の評価プロセスとの比較について

対象校に対するアンケート調査において、前回の認証評価を受けた時と比較して当機構の認証評価プロセスは改善されたか質問したところ、評価基準及び観点について、「評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった」（機関 10-①）かとの質問については、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校、「評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった」（機関 10-②）かとの質問については、「そう思う」が３校であった。

また、説明会・研修会について、「説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった」（機関 10-⑥）か質問したところ、「どちらとも言えない」が１校であった。

次に、訪問調査について、「訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われ

るようになった」（機関 10-③）か質問したところ、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校であった。

評価結果（評価報告書）については、「評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった」（機関 10-⑦）か質問したところ、「そう思う」が２校、「どちらとも言えない」が１校、「貴校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった」（機関 10-⑧）かとの質問については、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であり、「評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった」（機関 10-⑨）かとの質問については、「どちらとも言えない」が１校であった。

また、評価の効果・影響について、「自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった」（機関 10-⑩）か質問したところ、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校、「機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった」（機関 10-⑪）かとの質問については、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

さらに、評価の作業量等について、「評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった」（機関 10-④）か質問したところ、「そう思う」が１校、「そう思わない」が１校、「評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった」（機関 10-⑤）かとの質問については、「そう思う」が１校、「どちらとも言えない」が１校であった。

③　評価と課題

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響については、教育研究活動等の「改善の促進」に関しては、対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、効果・影響があったと考えられる。一方、教育研究活動等の「質の保証」「社会からの理解と支持」に関しては、対象校及び評価担当者から「どちらとも言えない」という回答が多く寄せられた。

前回の認証評価を受けた時の評価プロセスとの比較については、対象校からおおむね肯定的に評価されており、評価基準及び観点、訪問調査、評価結果（評価報告書）等について、前回の評価と比較して適切なものになったと考えられるが、評価に費やした作業量及び作業期間については否定的な回答も寄せられており、今後も評価の効率化について検討する必要がある。また、説明会・研修会等や評価結果に関するマスメディア等の報道の前回との比較については、「どちらとも言えない」という回答が寄せられており、自由記述においても、認証評価が社会に周知されているとは言い難く、公表（広報）に関し、努力すべき余地があるとの意見が寄せられていることから、認証評価の社会的認知度の向上については、今後、更に工夫を行っていく必要がある。

（９）評価についての全般的な意見・感想について

（１）～（８）に挙げたもののほか、評価全般について、対象校及び評価担当者から、主に次のような意見・感想があった。

・対象校からの意見・感想について

対象校から寄せられた意見・感想においては、評価機関として機構を選択した理由について、「前回も機構で評価を受けたため、継続性のある評価を行うことができ、前回との比較も行える」「充実した組織で、広い分野に対応できる」等が挙げられた。

機構の評価を受けた感想としては、「自己評価書を前回と比較しながら作成でき、おおむね期待どおりであった」「基準を満たしているとの評価を受けて安心している」等の感想が寄せられた。

また、選択的評価事項に係る評価を受けなかった理由については、「ほとんど評価実績がないため」「今後、他大学の実施状況等を見ながら必要に応じて検討したい」との意見が寄せられた。

・評価担当者からの意見・感想について

評価担当者から寄せられた意見・感想においては、「評価を受けた大学から、評価する側に巻き込んで、技量の普及や継承を図り、全体としての力量を高める必要がある」「評価を行った経験を自身の所属組織の運営に活かすことができる」との意見が寄せられた。一方、「認証評価の役割はシビルミニマムの達成で十分ではないか」という意見もあった。

３．総括

本報告書では、アンケート調査した項目のうち、主要な９つの事項、「（１）評価基準及び観点について」「（２）説明会・研修会について」「（３）自己評価書について」「（４）書面調査・訪問調査について」「（５）評価結果（評価報告書）について」「（６）評価の効果・影響について」「（７）評価の作業量等について」「（８）前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について」「（９）評価についての全般的な意見・感想について」を整理・分類し、分析・評価した結果をまとめている。以下にその概要を述べ総括する。

（１）評価基準及び観点について

評価基準及び観点の構成や内容は、大学の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」という評価の目的に照らして適切なものであると考えられる。また、評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることや、大学の教育研究活動等の「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らしても、おおむね適切であると考えられる。

評価しにくい、内容が重複する評価基準又は観点があったかについては、「ある」との回答も一部寄せられており、『自己評価実施要項』の留意点の表現を修正するなど対応している。今後も説明会等で対象校等の理解を深めていくことが必要であると考えられる。

（２）説明会・研修会について

認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会の実施内容、説明内容、配付資料のほか、機構の事務担当者の対応等はおおむね適切であると考えられる。

また、評価担当者に対する研修の実施内容、説明内容、配付資料、自己評価書のサンプルの提示、研修時間は適切であると考えられる。

（３）自己評価書について

自己評価書については、対象校では、評価基準及び観点に基づいた適切な自己評価により、わかりやすく完成度の高い自己評価書が作成されたとおおむね認識している。一方、評価基準及び観点の内容は適切に記述されていたかについては、評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多いとは言えず、理解しやすさについても、一部の評価担当者から否定的な回答が寄せられているため、第２サイクル１年目（平成 24 年度）の評価の実施状況も踏まえ、今後も説明会等において理解を深めるよう説明を工夫する必要がある。

自己評価書の添付資料については、一部の対象校から、どのようなものを用意す

ればよいか迷った、既に蓄積していたもので対応することができなかったとの回答が寄せられており、自己評価書に必要な根拠資料が引用・添付されていたかについては、一部の評価担当者から否定的な回答が寄せられている。機構としても、必要とする資料については『自己評価実施要項』の【根拠資料・データ例】で示す、当初の資料で確認できない場合は必要に応じ「確認事項」で求めるなど工夫しているが、引き続き添付資料の明確化に努め、説明会等で対象校の理解を深めるとともに、対象校においても、データの収集方法やその管理方法の工夫、提出前の複数人による再チェックが望まれる。

（4）書面調査・訪問調査について

書面調査による分析については、「書面調査による分析状況」の内容や、書面調査票等の様式はおおむね適切であると考えられる。また、客観的データ等の参考となる情報が必要との評価担当者の意見は寄せられていない。

訪問調査については、「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する対象校の回答内容、実施内容、人数及び構成、機構の事務担当者の対応等はおおむね適切であると考えられる。また、訪問調査によって不明な点を確認でき、機構の評価担当者と対象校との間で共通理解を得ることができていると考えられる。

（5）評価結果（評価報告書）について

評価報告書の内容については、評価の目的や対象校の目的、実態、規模等に照らしておおむね適切なものであるほか、その内容や構成、分量、記載方法についてもおおむね適切であり、教育研究活動等に関して新たな視点が得られるなど、総じて適切なものであると考えられる。

評価報告書等の公表については、すべての対象校がウェブサイト等で公表している。マスメディア等からの報道の適切性については、対象校からおおむね肯定的な回答が寄せられているものの、認証評価の社会的認知度の向上については、今後、認証評価機関 12 機関により組織される認証評価機関連絡協議会を通じ、他の認証評価機関とも協力して、更に工夫を行っていく必要がある。

意見の申立ての実施方法やスケジュール、内容や対応の評価報告書への掲載、機構の対応はおおむね適切であると考えられる。

（6）評価の効果・影響について

対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響については、現状や課題の把握及び改善の促進、評価に関する教職員の知識や技術の向上、自己評価の重要性の浸透、マネジメントの改善や個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与におおむね有効であると考えられる。一方、組織的な運営の重要性の浸透、各教員の意識の

向上といった効果・影響については、対象校からの有効であるとする回答は必ずしも多いとは言えず、今後、長期的な評価の効果・影響についても把握、検証していく必要がある。

また、対象校が評価結果を受けたことによる効果・影響については、現状や課題の把握、改善の促進、組織的な運営及び自己評価の重要性や評価結果の内容の教職員への浸透、評価に関する知識や技術向上、マネジメントの改善や個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与や質の保証のほか、社会からの理解と支持を得るといったことにおおむね有効であると考えられる。また、他大学の評価結果から優れた取組を参考にしようとすることにもおおむね効果・影響があると考えられる。一方、各教員の意識の向上、学生からの理解と支持への効果・影響については、対象校から有効であるとする回答は必ずしも多いとは言えず、自己評価を行ったことによる効果・影響と同様に、長期的な評価の効果・影響についても併せて把握、検証していく必要がある。

評価結果の活用については、対象校から具体的な改善取組事例が挙げられ、対象校が評価結果を基に改善・向上に取り組んでいることがわかる。今後も引き続き、機構及び対象校の相互の取組により、各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要であると考えられる。

（７）評価の作業量等について

評価に費やした対象校の作業期間については、おおむね適切であると考えられる。また、作業量については、意見の申立ては適切であると考えられるが、自己評価書の作成や「訪問調査時の確認事項」への対応、訪問調査のための事前準備、訪問調査当日の対応に係る作業量については、大きいとする回答が多く、自由記述においても、認証評価は７年に１度のため、ノウハウの蓄積も難しく、作業の負担は大きかったとの意見が寄せられている。一方、対象校が評価作業に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らしておおむね見合うものであったと評価されている。これらのことから、対象校は、自己評価書作成等に費やす作業に対して負担を感じているものの、評価に費やす労力は、評価の目的におおむね見合うと考えていることがわかる。機構では、平成 24 年度実施分からの『自己評価実施要項』において、期待される根拠資料等の例示や提出必須データの整理を行うなどの取組を行っているが、今後も引き続き、評価の効率化に努める必要がある。

また、評価に費やした評価担当者の作業量及び作業期間については、おおむね適切であると考えられるが、書面調査に係る作業量については、大きいとする回答も寄せられている。一方、評価担当者が評価に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らしておおむね見合うもので

あったと評価されている。これらのことから、評価担当者は、評価に費やす作業に対して負担を感じているものの、評価に費やす労力は、評価の目的におおむね見合うと考えていることがわかる。今後も引き続き、評価担当者の負担軽減を図る必要がある。

評価のスケジュールについては、自己評価書の提出時期及び訪問調査の実施時期は適切であると考えられる。

（８）前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響については、教育研究活動等の「改善の促進」にはおおむね効果・影響があったと考えられるが、教育研究活動等の「質の保証」「社会からの理解と支持」に関しては、「どちらとも言えない」という回答が多く寄せられている。

また、前回の認証評価と比較して、評価基準及び観点、訪問調査、評価結果（評価報告書）等については、おおむね適切なものになったと考えられるが、評価に費やした作業量及び作業期間については否定的な回答も寄せられており、今後も評価の効率化について検討する必要がある。また、説明会・研修会等や評価結果に関するマスメディア等の報道の前回との比較については、「どちらとも言えない」という回答が寄せられているため、認証評価の社会的認知度の向上については、今後、更に工夫を行っていく必要がある。

（９）評価についての全般的な意見・感想について

評価についての全般的な意見・感想については、対象校からは、機構の評価を受けた感想として、期待どおりであったとする感想が寄せられた。

また、評価担当者からは、有益であったとする感想のほか、評価の在り方についての意見等が寄せられた。

今回の検証によって、前回の認証評価を受けた時と比較した評価プロセスについて対象校から肯定的に評価されていることからも、これまでの検証を活かした改善が評価されていることがわかった。しかしながら、一方で、対象校、評価担当者双方から機構の行う現行の認証評価に対する意見・要望も見られたことから、更なる改善の必要性も示唆された。

認証評価の改善については、対象校が評価の経験を重ねることにより、自己評価書作成等の効率化が図られることが期待されるが、機構においても、寄せられた意見等を踏まえて、引き続き、認証評価の趣旨の更なる周知や実施方法等に関する合理化、効率化の取組等について検討していくことが必要であると考えられる。

参　考　資　料

参考資料　目次

１　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】

２　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】

３　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】

４　認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】

５　認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】（大学用）

６　認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】（大学用）

※　なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の大学や個人等が特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

平成24年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式）【対象校】

【大学】

1．評価基準及び観点について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関1−	① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	0	4	0	0	0	4	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関1−	② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	1	3	0	0	0	4	4.25	0
		25%	75%	0%	0%	0%	100%		
機関1−	③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	0	2	2	0	0	4	3.5	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関1−	④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		

【2：ある　1：ない】

		2	1	計	平均	未回答
機関1−	⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった	0	4	4	1	0
		0%	100%	100%		
機関1−	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	2	2	4	1.5	0
		50%	50%	100%		

2．評価の方法及び内容について

（1）自己評価について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2−(1)−	① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた	0	4	0	0	0	4	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関2−(1)−	② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた	0	2	1	1	0	4	3.25	0
		0%	50%	25%	25%	0%	100%		

【2：迷った　1：迷っていない】

		2	1	計	平均	未回答
機関2−(1)−	③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	1	3	4	1.25	0
		25%	75%	100%		

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2−(1)−	④ 対象校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた	1	1	2	0	0	4	3.75	0
		25%	25%	50%	0%	0%	100%		
機関2−(1)−	⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関2−(1)−	⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		

【2：参考にした　1：参考にしなかった】

		2	1	計	平均	未回答
機関2−(1)−	⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他大学の自己評価書を参考にした	2	2	4	1.5	0
		50%	50%	100%		

（2）訪問調査等について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(2)-	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	0	4	0	0	0	4	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	③ 訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く。以下同様。）が質問した内容は適切であった	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	④ 訪問調査の実施内容として、大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	2	1	1	0	0	4	4.25	0
		50%	25%	25%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	⑤ 訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった	2	2	0	0	0	4	4.5	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	⑥ 訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった	0	3	0	0	0	3	4	1
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	⑦ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	1	2	0	0	0	3	4.33	1
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった	1	2	0	0	0	3	4.33	1
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	⑨ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う	1	2	0	0	0	3	4.33	1
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		

（3）意見の申立てについて

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(3)-	① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関2-(3)-	② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった	0	2	1	1	0	4	3.25	0
		0%	50%	25%	25%	0%	100%		
機関2-(3)-	③ 対象校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった	0	1	0	0	0	1	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		

3. 評価の作業量、スケジュール等について

（1）評価に費やした作業量について

【5：とても大きい～3：適当～1：とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(1)-	① 自己評価書の作成	3	1	0	0	0	4	4.75	0
		75%	25%	0%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	0	4	0	0	0	4	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	③ 訪問調査のための事前準備	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	④ 訪問調査当日の対応	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関3-(1)-	⑤ 意見の申立て	0	0	4	0	0	4	3	0
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		

（2）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

【5：とても長い～3：適当～1：とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(2)-	① 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	0	1	2	1	0	4	3	0
		0%	25%	50%	25%	0%	100%		
機関3-(2)-	② 訪問調査のための事前準備	0	1	2	0	0	3	3.33	1
		0%	33%	67%	0%	0%	100%		
機関3-(2)-	③ 訪問調査当日の対応	0	1	2	0	0	3	3.33	1
		0%	33%	67%	0%	0%	100%		
機関3-(2)-	④ 意見の申立て	0	0	3	0	0	3	3	1
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		

（3）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(3)-	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関3-(3)-	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関3-(3)-	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	0	2	2	0	0	4	3.5	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		

（4）評価のスケジュールについて

【2：適当　1：適当でない】

		2	1	計	平均	未回答
機関3-(4)-	① 自己評価書の提出時期（6月末）は適当であった	3	0	3	2	1
		100%	0%	100%		
機関3-(4)-	② 訪問調査の実施時期（10月上旬～12月中旬）は適当であった	3	0	3	2	1
		100%	0%	100%		

4. 説明会・研修会等について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関4−	① 説明会の配付資料は理解しやすかった	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関4−	② 説明会の内容は理解しやすかった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関4−	③ 説明会の内容は役立った	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関4−	④ 自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関4−	⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関4−	⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関4−	⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関4−	⑧ 機構が行った訪問説明は役立った	0	0	1	0	0	1	3	0
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
機関4−	⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応）は適切であった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		

5. 評価結果（評価報告書）について

（1）評価報告書の内容等について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5−(1)−	① 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関5−(1)−	② 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関5−(1)−	③ 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関5−(1)−	④ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関5−(1)−	⑤ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	0	4	0	0	0	4	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5−(1)−	⑥ 評価報告書の内容は、対象校の規模等（資源・制度など）を考慮したものであった	0	2	1	1	0	4	3.25	0
		0%	50%	25%	25%	0%	100%		
機関5−(1)−	⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	1	3	0	0	0	4	4.25	0
		25%	75%	0%	0%	0%	100%		
機関5−(1)−	⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	1	2	0	1	0	4	3.75	0
		25%	50%	0%	25%	0%	100%		
機関5−(1)−	⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった	0	4	0	0	0	4	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		

（2）自己評価書及び評価報告書の公表について

【2：している　1：していない】

		2	1	計	平均	未回答
機関5−(2)−	① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している	4	0	4	2	0
		100%	0%	100%		
機関5−(2)−	② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している	4	0	4	2	0
		100%	0%	100%		

（3）評価結果に関するマスメディア等の報道について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5−(3)−	① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた	1	1	1	0	0	3	4	1
		33%	33%	33%	0%	0%	100%		

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

（1）自己評価を行ったことによる効果・影響について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(1)-	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができた	1	3	0	0	0	4	4.25	0
		25%	75%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた	2	2	0	0	0	4	4.5	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した	1	0	3	0	0	4	3.5	0
		25%	0%	75%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した	1	0	3	0	0	4	3.5	0
		25%	0%	75%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進した	1	3	0	0	0	4	4.25	0
		25%	75%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立った	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進した	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑧ 対象校の個性的な取組を促進した	0	2	2	0	0	4	3.5	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した	1	1	2	0	0	4	3.75	0
		25%	25%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した	1	1	2	0	0	4	3.75	0
		25%	25%	50%	0%	0%	100%		

（2）機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(2)-	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができる	1	3	0	0	0	4	4.25	0
		25%	75%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる	2	2	0	0	0	4	4.5	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する	1	0	3	0	0	4	3.5	0
		25%	0%	75%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進する	1	3	0	0	0	4	4.25	0
		25%	75%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立つ	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進する	0	2	2	0	0	4	3.5	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑧ 対象校の個性的な取組を促進する	0	2	2	0	0	4	3.5	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する	1	1	2	0	0	4	3.75	0
		25%	25%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑫ 対象校の教育研究活動等の質が保証される	0	4	0	0	0	4	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる	0	0	4	0	0	4	3	0
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑭ 広く社会の理解と支持が得られる	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	⑮ 他大学の評価結果から優れた取組を参考にする	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		

7. 評価結果の活用について

（1）今回の評価（機構の評価結果だけでなく、対象校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）について、

（省略）

（2）対象校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。（複数回答可）

1　対象校の広報誌に評価結果を掲載する。
2　対象校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3　資金獲得のための申請書に記載する。
4　学生募集の際に用いる。
5　共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
6　その他（具体的に）

1	2	3	4	5
0	4	0	0	0

9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関9-	① 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	1	0	2	0	0	3	3.67	0
		33%	0%	67%	0%	0%	100%		
機関9-	② 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	1	2	0	0	0	3	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関9-	③ 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	0	0	3	0	0	3	3.00	0
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

【5：非常に良くなっている～3：どちらとも言えない～1：非常に悪くなっている】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関10-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった	0	2	1	0	0	3	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関10-	② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった	0	3	0	0	0	3	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関10-	③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった	0	2	1	0	0	3	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関10-	④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった	0	1	0	1	0	2	3.00	1
		0%	50%	0%	50%	0%	100%		
機関10-	⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった	0	1	1	0	0	2	3.50	1
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関10-	⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった	0	0	1	0	0	1	3.00	2
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
機関10-	⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった	0	2	1	0	0	3	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関10-	⑧ 対象校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった	0	1	1	0	0	2	3.50	1
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関10-	⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった	0	0	1	0	0	1	3.00	2
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
機関10-	⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった	0	1	1	0	0	2	3.50	1
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関10-	⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	0	1	1	0	0	2	3.50	1
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		

平成24年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式）【評価担当者】

【大学】

1. 評価基準及び観点について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評1−	① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	3	6	0	0	0	9	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
評1−	② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	2	7	0	0	0	9	4.22	0
		22%	78%	0%	0%	0%	100%		
評1−	③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	1	4	4	0	0	9	3.67	0
		11%	44%	44%	0%	0%	100%		
評1−	④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	4	5	0	0	0	9	4.44	0
		44%	56%	0%	0%	0%	100%		

【2：ある 1：ない】

		2	1	計	平均	未回答
評1−	⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった	3	6	9	1.33	0
		33%	67%	100%		
評1−	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	2	6	8	1.25	1
		25%	75%	100%		

2. 評価の方法及び内容・結果について

（1）自己評価書について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2−(1)−	① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	0	4	2	3	0	9	3.11	0
		0%	44%	22%	33%	0%	100%		
評2−(1)−	② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた	0	3	5	1	0	9	3.22	0
		0%	33%	56%	11%	0%	100%		
評2−(1)−	③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	0	4	1	4	0	9	3	0
		0%	44%	11%	44%	0%	100%		

（2）書面調査について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2−(2)−	① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	1	7	1	0	0	9	4	0
		11%	78%	11%	0%	0%	100%		
評2−(2)−	② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった	0	0	6	1	2	9	2.44	0
		0%	0%	67%	11%	22%	100%		

（3）訪問調査について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2−(3)−	① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	0	6	3	0	0	9	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%		
評2−(3)−	② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた	1	7	1	0	0	9	4	0
		11%	78%	11%	0%	0%	100%		
評2−(3)−	③ 訪問調査の実施内容として、大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	5	3	0	0	0	8	4.63	0
		63%	38%	0%	0%	0%	100%		
評2−(3)−	④ 訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった	3	5	0	0	0	8	4.38	0
		38%	63%	0%	0%	0%	100%		
評2−(3)−	⑤ 訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった	2	5	0	1	0	8	4	0
		25%	63%	0%	13%	0%	100%		
評2−(3)−	⑥ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	0	8	0	0	0	8	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		

評2-(3)-	⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった	1	7	0	0	0	8	4.13	0
		13%	88%	0%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった	4	4	0	0	0	8	4.5	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		

（4）評価結果について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(4)-	① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	3	6	0	0	0	9	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
評2-(4)-	② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった	4	3	2	0	0	9	4.22	0
		44%	33%	22%	0%	0%	100%		
評2-(4)-	③ 評価結果全体としての分量は適切であった	3	5	1	0	0	9	4.22	0
		33%	56%	11%	0%	0%	100%		
評2-(4)-	④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった	4	4	1	0	0	9	4.33	0
		44%	44%	11%	0%	0%	100%		

3. 研修について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評3-	① 研修の配付資料は理解しやすかった	2	7	0	0	0	9	4.22	0
		22%	78%	0%	0%	0%	100%		
評3-	② 研修の説明内容は理解しやすかった	4	5	0	0	0	9	4.44	0
		44%	56%	0%	0%	0%	100%		
評3-	③ 研修の内容は役立った	2	7	0	0	0	9	4.22	0
		22%	78%	0%	0%	0%	100%		
評3-	④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った	2	6	1	0	0	9	4.11	0
		22%	67%	11%	0%	0%	100%		
評3-	⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった	2	7	0	0	0	9	4.22	0
		22%	78%	0%	0%	0%	100%		

4. 評価の作業量、スケジュール等について

（1）評価に費やした作業量について

【5：とても大きい～3：適当～1：とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(1)-	① 自己評価書の書面調査	1	3	5	0	0	9	3.56	0
		11%	33%	56%	0%	0%	100%		
評4-(1)-	② 訪問調査への参加	0	1	6	1	0	8	3	0
		0%	13%	75%	13%	0%	100%		
評4-(1)-	③ 評価結果（原案）の作成	1	0	8	0	0	9	3.22	0
		11%	0%	89%	0%	0%	100%		

（2）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

【5：とても長い～3：適当～1：とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(2)-	① 自己評価書の書面調査	0	0	7	2	0	9	2.78	0
		0%	0%	78%	22%	0%	100%		
評4-(2)-	② 訪問調査への参加	0	1	5	2	0	8	2.88	0
		0%	13%	63%	25%	0%	100%		
評4-(2)-	③ 評価結果（原案）の作成	0	0	9	0	0	9	3	0
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		

（3）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(3)-	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	0	7	2	0	0	9	3.78	0
		0%	78%	22%	0%	0%	100%		
評4-(3)-	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった	0	7	2	0	0	9	3.78	0
		0%	78%	22%	0%	0%	100%		

評4-(3)-	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	0	5	3	1	0	9	3.44	0
		0%	56%	33%	11%	0%	100%		

（4）評価作業にかかった時間数について

		計	平均	1校当たりの平均	未回答
評4-(4)-	① 自己評価書の書面調査	8	34.6 時間	28.4 時間/1校	1
評4-(4)-	② 訪問調査の準備	7	5.7 時間	5.0 時間/1校	1
評4-(4)-	③ 評価結果（原案）の作成	8	6.9 時間	4.6 時間/1校	1

5. 評価部会等の運営について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評5-	① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった	3	5	1	0	0	9	4.22	0
		33%	56%	11%	0%	0%	100%		
評5-	② 部会運営は円滑であった	3	6	0	0	0	9	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		

6. 評価全般について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評6-	① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う	1	7	1	0	0	9	4	0
		11%	78%	11%	0%	0%	100%		
評6-	② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う	1	6	2	0	0	9	3.89	0
		11%	67%	22%	0%	0%	100%		
評6-	③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	1	4	2	2	0	9	3.44	0
		11%	44%	22%	22%	0%	100%		
評6-	④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	2	4	3	0	0	9	3.89	0
		22%	44%	33%	0%	0%	100%		
評6-	⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	3	3	3	0	0	9	4	0
		33%	33%	33%	0%	0%	100%		
評6-	⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった	3	6	0	0	0	9	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

【5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評7-	① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	0	2	4	0	0	6	3.33	1
		0%	33%	67%	0%	0%	100%		
評7-	② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	0	3	3	0	0	6	3.5	1
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
評7-	③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	0	0	4	1	0	5	2.8	2
		0%	0%	80%	20%	0%	100%		

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
（大学）

１．評価基準及び観点について

⑥重複していると思われる評価基準又は観点について

（基準５）「教育内容及び方法」

・　基準５は学部と大学院で分かれている。分かれていることが適当な観点もあるが、例えばシラバスに関する観点５－２－③と５－５－③は、学部と大学院を分けることは難しい。

（その他）

・　基準６と８の一部など。

○評価基準及び観点についての意見、感想など

・　設定された評価基準及び観点については、大学における教育研究活動が関係法令等を踏まえて適正に行われているのかを、大学自らが点検するうえでも適切なものであったと思われる。

・　「社会からの理解と支持を得る」については、自己点検書や評価報告書を基本データとし、もっと一般の方にわかりやすい文章で示す方がよいのではないでしょうか。

・　教職大学院については、平成 22 年度に教員養成評価機構による教職大学院等認証評価を受審しているにもかかわらず今回も記述を求められた。これは大きな重複と考える。

２．評価の方法及び内容について

（１）自己評価について

○自己評価についての意見、感想など

・　本学では、今回の自己評価にあたり、評価基準を満たしているのかという視点から自己評価書のとりまとめを行い、大学における個性的な取組等については、あまり記載をしていなかった。今回の認証評価では、大学の個性の伸長に資する評価を実施することが方針として示されているが、その意図を十分に汲み取れていなかったと感じる。今後、他大学においても、本学と同様の視点で自己評価書を作成することも考えられるため、大学の個性の伸長につながるような個性的な取組等を積極的に自己評価書に記載するよう、各大学の意識付けを十分に行っていただく必要があるのではないかと思う。

（２）訪問調査等について

○訪問調査等についての意見、感想など

・　評価委員は、今回の認証評価の方針等を十分理解しており、それぞれの意識が共有されていたと感じた。大学関係者との面談においては、自己評価書に記載されていなかった本学の個性的な取組

等についても説明を求め、大学の総合的な状況を積極的に把握しようとしていたように思う。本学の教育研究を進めていくうえで参考となるご意見等もいただくことができ、有意義であったと思う。

・　質疑応答においては、機構の評価担当者は、本学の良い点を積極的に取り上げようという姿勢と、不十分と考えられる点は厳しく審査する姿勢が見られ、当方にとって非常に緊張した時間であるとともに、有意義な時間でもあった。そして教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ようという意図を感じることができた。

３．評価の作業量、スケジュール等について

（１）評価に費やした作業量について

○評価に費やした作業量についての意見、感想など

（具体的にどのような作業において作業量が大きかったかについて）

・　自己評価書の作成については、大学機関別認証評価が７年ごとであることから、作業を行う者が前回と代わっており、ノウハウの蓄積も難しいため、作業の負担はかなり大きかったと感じたが、自己評価書の作りこみをしっかりやることで、その後の作業にも影響してくることから、負担が大きくなることは、ある程度やむを得ないのではないかと思う。

・　関連データの収集及び執筆。

・　評価担当専従者が置けない小規模な大学にとっては負担が大きい。

（２）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

○機構が設定した作業期間についての意見、感想など

・　訪問調査当日の対応については、限られた期間のなかで対応せざるを得ないため、窮屈な作業となることはある程度やむを得ない面があり、全般的に見て、作業期間は適当であったと思われる。

・　訪問調査の詳細がわかるのが四週間前と決まっているようであるが、詳細は四週間前でも良いが、概略はもう少し早くわかるとよい。

（３）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

○評価作業に費やした労力についての意見、感想など

・　評価作業により、本学の教育研究等の状況を確認することができ、質の保証や改善に向けた取組を進めるうえで効果があったと感じる。また、第三者機関が定めた基準による評価であるため、社会的にも理解が得られるものであると思われることから、評価に費やした労力は、評価の目的に見合うものであったと考えられる。

・　確かに評価に多大な労力を費やしたのは事実であるが、７年に一度、本学の状況を精査することは非常に重要かつ有意義である。

（４）評価のスケジュールについて

○評価のスケジュールについての意見、感想など

・　あらかじめ評価に係るスケジュールが示されていたため、スケジュールに沿って計画的に作業を進めることができたので、スケジュールについては、特に問題はなかったと感じている。

・　事前にきちんと決まっていれば、特に問題は無い。

４．説明会・研修会等について

○説明会・研修会等についての意見、感想など

・　説明会については、大学機関別認証評価の概要等に関し、各大学が共通的な理解を得るためにおおむね適正な内容であったと思われる。また、研修会については、評価基準の留意点等、内容としては適正であったと思われるが、短時間での詰め込みという感じもあり、実際に評価を受ける大学に対しては、もう少し時間をかけた説明を行ってもよいように感じた。

・　⑦（自己評価実施要項等の冊子）に関して、紙媒体の冊子より、Ｗｅｂに公開されているｐｄｆファイルを有効に利用させていただいた。

５．評価結果（評価報告書）について

（１）評価報告書の内容等について

○評価結果（評価報告書）についての意見、感想など

・　評価結果において、本学の取組状況と併せ、本学の強み（優れた取組）と弱み（検討課題）がとりまとめられており、教育研究の質の保証や改善に向けた取組を進めるうえで、参考となるものであった。

・　評価報告書(案)を作成する段階で、評価担当者が各機関の評価をされた後で、他の機関の評価を参考にして、同じような実施状況に対して異なる評価になっていないかを念のため確認するステップを入れられたらいかがでしょうか。

・　評価結果は適切であったと考えます。

今回の結果におきまして、本学の特徴的な教育手法を「優れた点」として評価いただきました。旧来のいわば成熟した教育内容及び教育手法と異なり、新たな教育分野での新たな教育手法に対する評価は、とかく慎重になりがちでありますが、本学の取組を良く御理解いただけたものと考えております。

新たな教育手法の開発は、我が国の教育の進展や産業発展を進めるうえで欠かすことのできない要件と考えます。今後も当該分野に造詣が深い評価者によって、先進的な教育を正しく評価されますことを期待しております。

６．評価を受けたことによる効果・影響について

（１）自己評価を行ったことによる効果・影響について

○自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想など

・　評価作業により、本学の教育研究等の状況を確認することができ、質の保証や改善に向けた取組を進めるうえで効果があったと感じる。

・　自己評価書の作成には多くの教職員が関わっており、各々の担当部分では深く理解しているが、全教職員が全体を把握しているかと言えばそうではない。

・　自己評価を通じて、評価項目と本学の具体的な取組との関係を整理していくことにより、それぞれの取組の重要性が教職員にとって明確になり、浸透していく効果が得られたと考えます。

　また、自己評価を行うためには、組織的な体制で継続的な活動が必要となります。自己評価を定期的に実施することは、評価結果による即時的な効果よりも、長期的な教育改善活動の体制づくりをする上で、効果があると考えます。

（２）機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

○機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連しての意見、感想など

・　大学機関別認証評価については、社会から見た場合、基準を満たしていて当然というような風潮があるように思われ、基準を満たしていない場合の方が社会的な影響は大きいと感じる。基準を満たしていることや優れた取組を行っていることが、もっと社会に大きな影響を与えられるような工夫が必要かもしれない。

・　必ずしも全教職員が、本評価結果の細部に至るまで把握し、理解しているとは言えない。今後、様々な機会を通じて、この結果を浸透させていくことが重要である。

・　日々、先進的な教育手法に取り組んでいる教職員にとって、その積極的な活動を認めた評価結果を頂くことが、自信と意欲の増強につながると考えます。特に、受審する機関が特徴的と捉えている項目に対しては、影響が大きいと考えます。今後も、具体的で明確な評価結果の提示を期待いたします。

７．評価結果の活用について

①今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（又は実施済みのもの）について

○主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度について

※参考度：【５：非常に参考になった～３：参考になった～１：あまり参考にならなかった】

（基準４）「学生の受入」

・【課題】　入学定員超過率（大学院）

【変更・改善】　改善に向けて検討している。【４】

（基準５）「教育内容及び方法」

・【課題】 【観点５－２－②】主体的学習の促進という観点から、予習・復習時間が相対的に少ない。

【変更・改善】学生の主体的な学習の促進について検討を行うこととしている。【４】

・【課題】 【観点５－６－④】大学院課程において、学位論文に係る評価基準が明文化されていなかった。

【変更・改善】 「学位規則」及び「学位審査取扱規程」の改正を行い、学位論文の審査基準を明文化し、学生に周知した。【５】

・【課題】 大学院課程においては、成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が十分に講じられているとは言い難い。

【変更・改善】 大学院の一つの専攻において、教育の質保証に関する自己点検・評価を平成 25 年３月に実施した。その中で指摘された課題にも対応している。今後、すべての専攻で実施する予定である。【５】

・【課題】 単位の実質化

【変更・改善】 取得単位数の上限を見直す方向で検討している。【４】

（基準６）「学習成果」

・【課題】 「英語力」については、プレースメントテストでのクラス分けに応じた学習、ＴＯＥＩＣの試験機会の増加、理工学に直結した教育課程の開発等の取組を行っており、その成果については今後の向上に期待したい。

【変更・改善】 現在の取組を継続し、成果の検証を行うこととしている。【３】

・【課題】 修了生に対する体系的・組織的な意見聴取が行われていない。

【変更・改善】 本学修了後も継続的に使用できるビデオ講義受講制度やアンケート等を活用し意見聴取できる仕組みの整備を検討している。 【５】

（基準８）「教育の内部質保証システム」

・【課題】 自己点検・評価に必要な教育活動に関する資料やデータについては、継続的に収集・蓄積・分析する体制の構築が必要である。

【変更・改善】 本学における「教育の質保証室」の設置及び自己点検・評価委員会の活動内容の充実等により、教育活動に関する資料やデータについて継続的に収集・蓄積・分析する体制の構築を整備している。【５】

８．評価の実施体制について

○評価の実施体制について、対象校が行っている方策・工夫等、その方策・工夫等についてよかった点、悪かった点等、その他感想について

・　中期計画ワーキンググループを立ち上げ、年度計画の実施状況について、中間時と年度終了後の年２回点検を行い、必要に応じて意見を付して、各計画の担当部署にフィードバックを行うことにより、中期計画の達成に向けた進捗状況の管理及び中期目標期間終了後の評価に備えている。これにより、各担当部署においては、中期目標・計画の達成や、それに伴う成果の検証等に対する意識がより深まるといった効果がある一方で、中間時の報告などの業務量の負担が増えている。

・　○評価担当責任者連絡会議・・・各委員会・部署に評価担当責任者を置き、年度初めに年度計画の確認を行っている。

　○進捗状況に関するヒアリング・・・年度計画の進捗状況の確認を、大学評価室及び企画調整室において行っている。

・　本学設立以来、初めての機関別認証評価であったため、評価の実施体制を整えるほかには、特段の方策・工夫等はされておりません。評価に対する知識不足があったものの、情報アーキテクチャ専攻においては平成 22 年度、創造技術専攻においては本年度に分野別認証評価を受審したため、自己評価書の作成、および受審プロセスの共通性によって、若干の作業効率化が得られました。

　今後は、評価の実施体制やプロセスを分析し、認証評価実施に対しての作業ルーティン化を進める予定であります。

９．前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

①質の保証にどのような効果・影響があったかについて

・　前回は、前例のない初めての認証評価であったため、認証評価における「質の保証」についての概念、事項の整理などを通して十分な学習をさせていただいたという点で大きな効果・影響があった。

②改善の促進にどのような効果・影響があったかについて

・　前回の認証評価で指摘を受けた教養、外国語、基礎学力関連の能力養成の更なる充実のため、英語については、プレースメントテストによるクラス分けやプレースメントテストの成績が悪かった学生に基礎科目（総合英語Ａ・Ｂ）の履修の義務付けを行っている。また、教養科目については、平成 19 年度に設置した共通教育センターにおいて、カリキュラムの再編、新規科目の開講や授業改善のための「共通教育公開授業」の開催等の取組を行うなど、認証評価結果に基づく改善を進めている。

・　評価結果等を基に法人室会議により改善計画を立てることにより、目標が明確になり、改善のスピードが上がった。

③社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったかについて

・　大学がこのようなしっかりした認証評価を受けていることが社会に周知されているとは言いがたい。公表（広報）に関し、さらに努力すべき余地があるのではと思う。

１０．前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

○質問項目以外で悪くなっていると思う事項について

・　（悪いわけではないが）認定証が、前回は英文併記であったが、今回は日本語のみである。並べると見劣りする。

１１．その他

○認証評価機関として機構を選択した理由、実際に評価を受けて期待どおりだったかについて

・　前回の大学機関別認証評価を貴機構で受けており、継続性のある評価により、前回との比較も行えることなどから、今回も貴機構の評価を受けることとした。自己評価書についても、前回と比較しながら作成ができ、概ね期待どおりであったと思う。

・　法定評価であり、受審が義務付けられている以上、国立大学法人が取り組むべき業務と考える。その意味で、今回「大学評価基準を満たしている」との評価を受け、安心している。今後も改善に向けて努力していく所存である。

・　本学が専門職大学院であるとともに、教育分野が特徴的であるため、認証評価機関として対応できる機構は限られることとなり、充実した組織で、広い分野に対応できる貴機構にお願いしました。

　評価者の先生方におかれましては、御多忙の中、丁寧な書類調査をくださり、また、訪問調査等においても紳士的なご対応をいただいて、本学の特徴を正しくお伝えできたことが幸甚なことでありました。

（選択評価事項に係る評価を受審しなかった対象校のみ）

○選択評価事項に係る評価を受審しなかった理由、評価に対する要望（新たに設けることが望ましい評価事項、評価方法、評価手数料等）等について

・　大学機関別認証評価の申請前に、平成 24 年度に外部評価を行うことが計画されており、外部評価の評価事項に選択評価事項の内容が含まれることから、選択評価事項に係る評価は受けないこととした。現時点では、選択評価事項に係る評価に対しての要望は特にないが、今後、他大学の実施状況等も見ながら必要に応じて検討したい。

・　重要な評価事項であること、唯一の第三者評価であることは認識しているが、ほとんど評価実績がないため。

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
（大学）

１．評価基準及び観点について

⑤評価しにくい評価基準又は観点について

（基準５）「教育内容及び方法」

・　単位の実質化に関する観点は、実情と実現可能性をふまえて、「単位の実質化」の意味するところをもっと詰めるべきだと思う。機械的な数字あわせにならないよう、注意が必要。教育成果を問うのが究極であるとすれば、「単位の実質化」は、手段にすぎないことも考える必要がある。

・　観点５－２－②、５－３－③、５－５－②、５－６－③

（基準６）「学習成果」

・　観点６－１－②、６－２－②

（基準８）「教育の内部質保証システム」

・　内部質保証については、大学側の理解が進んでいないことと評価者サイドでも共通認識が出来ていないこともあり、どの程度まで要求するのかがはっきりしておらず、評価が難しかった。

（基準９）「財務基盤及び管理運営」

・　観点９－１－②

⑥内容が重複する評価基準又は観点について

（基準５）「教育内容及び方法」

・　観点５－５－④の夜間において授業を実施している課程（夜間大学院や教育方法の特例）を置いている場合…の記述は誤解しやすい。14 条特例は別記した方が良い。

（基準６）「学習成果」

・　観点６－２－①、６－２－②

○評価基準及び観点についての意見、感想など

・　この間、基準及び観点が、重複を避けながらわかりやすく整理されてきていると思います。

・　認証機関評価の二期目の最初の年なので、新しい観点についてはまだ大学関係者間での理解が進んでいない気がする。他の認証評価機関とも連携し、３つのポリシーや内部質保証については説明していく必要があるのではないか。

・　各観点を「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」に大別して３部構成にすることにより、認証評価の意味が明確になる。

・　設置審や法令・解釈等の遵守、誘導、啓蒙と、認証評価の関係が曖昧である。曖昧さの良さもあるが、文科省からも独立した作業なのか、指導下にあるのかも明確にした方が良い。

２．評価の方法及び内容・結果について

（１）自己評価書について

①対象校の自己評価書の理解しにくかった点について

・　提示された資料が間違っていたり、データ記述に齟齬があったり、正しい内容を理解するのに多大な時間を要しました。自己評価書提出に際して複数の人間がチェックしていればこのような問題は起こり得ないはずであります。当該校の自己点検・評価体制の在り方に対して大きな疑問を感じました。

・　とくにスリーポリシーズなどに関して、中教審答申の考え方をもっと研究すべきだと思う。

・　前回の認証評価との間があって担当者が変わってしまい、経験が十分に継承されていないことを実感した。

③どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかについて

・　評価結果に対する意見申し立て段階においても、当該校から多くの資料が提出されてきました。これはひとえに当該校の自己点検・評価体制に帰着させることができます。しかしながら、初めて認証評価を受ける大学の立場を考えると、評価機構からの指示事項に不備がなかったかどうか再点検する必要があるとも考えます。

・　規則の引用など、必ずしも必要のないものが多かった。ポイントをおさえた資料提示という点で、もっと工夫が必要だと思う。

・　事実の羅列を文章で書かれると読みにくい。もっと図表を使うなどの工夫がほしい。

・　ＧＰＡの分布を示すデータを要求したのに、訪問調査の際に成績原簿が置かれていた。

○自己評価書の様式についての意見、感想など

・　評価委員からの意見聴取も重要ですが、認証評価を終了した大学からのヒアリングも重要と考えます（実施しているのであればご容赦を）。

・　資料（データ）は示されているものの、字数が極端に少なく、「資料を見ればわかるでしょ」というような書きぶりで、「状況の説明」や「分析・評価」がなされているとは言えないような観点がいくつかありました。このような場合、書面調査では一から文章を起こす必要があり、「もう少し丁寧に記述してください」と言いたくなりました。

・　スマートに記述されており、引用・添付資料の使い方が上手であった。逆に、ホームページ等を参照しなければならず、頁内で情報完結していない為、読み込んでいくと次第に作業が煩雑になっていくので、図表等の本文中の引用を行って頂きたい。

（２）書面調査について

○書面調査についての意見、感想など

・　現在の書面調査の様式や実施方法は、主査を中心に評価チームでの調査作業が、効果的・効率的に出来るよう、よく工夫されていると思います。

・　対象校の自己評価書を書かれる責任ある立場の方に、自分が評価する立場で評価書をお読みくださいと伝えていただくと良いのではないでしょうか。今回、客観的に評価する立場になって色々とわかったことがありました。

・　第３期はどのようになるか不明だが、改善促進という点からすれば、第６の教育の成果等については､10 年前と現時点の２種の数値データを比較できるような記述が求められるようになるだろう。

（３）訪問調査について

④訪問調査の実施方法の適切でなかった点について

・　授業参観は本当に必要なのだろうか。不必要な、又は余分な情報が入り込んでくるように思う。

⑤訪問調査の実施内容に係る時間配分の適切でなかった点について

・　全般的に、面談時間が少ないと感じました。時間の制約上、致し方ないと考えますが、あと５割増えればというのが実感です。

○訪問調査についての意見、感想など

・　一般教員、学生や卒業生との面談において、当該校は不利にならない人選を行いがちです。この点が改善されなければ、真の意味でのバックデータが得られないと考えます。どのようにしたら良いのかという解答は持ち合わせていませんが、このあたりが認証評価の限界なのでしょうか。

・　ある大学では、学長が冒頭のあいさつで自校のプレゼン的説明を行なったため、質疑応答の時間が少なくなってしまった。こうした時間の使い方がないよう、事前に念を押しておく必要があると思った。

・　現在の訪問調査の実施方法は、調査作業が効果的・効率的に出来るよう、よく工夫されていると思います。

・　初めてだったので、こんなに大変なのだと驚きました。評価書の記述を修正する時間は足りなかったと思いますが、このあたりは、自己評価書の質と訪問調査で出される資料に拠ると思います。また、訪問調査にこれ以上の時間を割くのも現実的でありません。

・　訪問調査は、学内の雰囲気を実感する上で重要。特に学生、卒業生との面談は学風を知る上で有効。

（４）評価結果について

○評価結果についての意見、感想など

・　全体として妥当な評価結果を出してきていると思いますが、評価結果がさほど改善に繋がらないという大学側の声もあることから、もう少し積極的に「改善を要する点」の範囲を広げていくことも必要かと思います。

・　基準を満たしているという判断を示すというので良いのかということは、やはり検討していくべきではないか。どのレベルで基準を満たしているのかということを示すのは難しいのだろうが、我が国の大学が置かれている厳しい状況を考えると大学評価をもっと社会が関心を持つ形にしていく必要があるのではないか。第３期に向けて、是非、ご検討ください。（試行評価では、達成度の水準を段階的に示していましたので。）

・　基準１～10 について、すべてが丸（○）になることが、認証を受審することの意味であり、他の政策誘導的な側面は、あまり深追いすべきではない。

３．研修について

○研修についての意見、感想など

・　平成 24 年６月に平成 24 年実施分評価担当者として研修を受けましたが、資料や説明の一部に平成 25 年度実施分の内容が含まれており、少し混乱を覚えた記憶があります。

・　受審予定校は、受審時の３、４、５月頃に必ず研修を受けるよう、要件付けることが望ましい。
　観点等では重複はないよう設計されていること、本文中に図表等を用いて簡潔かつ完結する本文を作成するよう努めること、等を徹底する機会を設けるべき。

４．評価の作業量、スケジュール等について

（１）評価に費やした作業量について

○評価に費やした作業量についての意見、感想など

・　自己評価書を読み込み、評価原案を作成する作業に、多くの時間を要しました。訪問調査への参加に際しては、機構担当者から的確に要約した資料を提示していただいていたので、作業量は大幅に軽減されました。

・　本務校での授業、それも同じ曜日を何度か休講にしなければならなかったのがつらかった。せめて、研修などは、授業のない時期にうまく工夫できないものだろうか。そのへんを工夫しないと、良質のピアレヴューが持続しないと思う。

・　特に、作業量が多くて大きな負担になったということはありませんでした。

（２）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

○機構が設定した作業期間についての意見、感想など

・　作業期間については、致し方ないと考えます。それよりも、評価委員の作業量以上に、機構担当者の作業量が膨大なものであると推察いたします。

・　現在の作業期間で特に問題はありませんでした。

・　作業期間は十分あったが、通常業務が多忙でなかなか書面調査が進まなかった。今後はもっと計画的に作業の時間を確保するように留意します。

（３）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

○評価に費やした労力についての意見、感想など

・　目的に見合うかどうかは、次回の認証評価時でないと判断できません。今回の認証評価判定案が当該校のさらなる発展に寄与することを願うのみです。

・　いろいろと意見や評価はあるようですが、認証評価の制度があり、それを実施していくことが、大学に改善を促し、教育研究の維持・向上に繋がっていることを考慮すれば、評価担当者が評価作業に費やしている労力は、十分に目的に見合っていると思います。

・　労力をかけただけのことはあったと思う。特に、訪問調査で直接口頭で伝える部分の効果は大きい。

（４）評価作業にかかった時間数について

○評価作業にかかった時間数についての意見、感想など

・　申し訳ございません。どの程度時間を要したのか計っていなかいので記入不可能です。感触としては、科研費でいうエフォート６割以上というのが実感です（今回初めて参加させていただきました）。

・　通常業務の合間にこなせる範囲であり、特に問題はありませんでした。

・　自己評価書と事前に提出された資料のみを見るだけだとそれほど時間はかからないが、対象校のホームページ等のチェックにはかなり時間がかかった。

５．評価部会等の運営について

○評価部会等の運営についての意見、感想など

・　ベテランの先生方がいらっしゃったので、とても円滑だったと思う。ただし、今後、受審する大学数が多くなったとき、この水準を確保できるのか、やや心配である。

・　これまでの多年にわたる経験を踏まえて、現在の運営方法が定着してきたものと理解しています。特に、問題は感じませんでした。

【評価担当者】

６．評価全般について

〇評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についての意見、感想など

・　すべて５というのは、そうあっていただきたいという願いからです。
　機構事務局が適切に対処していただいたおかげで、作業量を大幅に軽減することができました。感謝申し上げます。

・　評価を受審した大学から、少しずつでも評価する側に巻き込んで、技倆の普及や継承を図り、全体としての力量をたかめる必要がある。レヴェルを落とすことはできないとはいえ、ピアレヴューの原則を維持するために、受審する大学は評価者を出す義務も負っている、という自覚を持たせる工夫が必要と思われる。

・　認証評価については、いろいろと意見や評価が出始めているようですが、認証評価の制度があり、大学がその受審に向けて様々な取り組みを進めることが、大学に改善を促し、教育研究の維持・向上をもたらしていることは明白であり、認証評価制度は十分機能していると思います。

・　今後の自大学の評価、高等教育全体の評価のことを考えると経験できてよかった。自大学の運営に活かすことができるかは今後の課題であり、現段階では判断できない。

・　認証評価を経験できて良かった。自身の所属組織の運営に活かすことができる事項はいくつかあると思う。できるだけ多くの人に認証評価を経験していただきたい。
　②③は（私も願ってはいるが、）実際にはそれ程強い効果効用は期待できない。
　認証評価の役割はシビルミニマムの達成という役割で充分ではなかろうか。

７．前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

①対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった点について

・　最低限、評価をしないとわからないことがある、という認識は広がったのではないか。ただし、まだ、端緒にすぎず、評価を改善に活かすという点ではまだ不十分である。とても、評価文化の定着、と総括するできるレベルにはなっていないと思う。

・　例えば自学自習の為の環境整備等が充実してきている。(図書館や学習相談室等)

②対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった点について

・　前回の認証での「改善を要する点」の指摘を受けて、図書館やバリアフリーに関する改善が行われている。

・　前回主題であった、アドミッションポリシーやシラバスについてはほぼ OK となり、今回はカリキュラムポリシーとディプロマポリシーの作成が課題であるが、改善改定されていくものと推察される。

③対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった点について

・　活動内容や努力の方向は推察できる。エビデンスで示すことは難しい。

【評価担当者】

８．その他

○その他、機構の行う評価についての意見など

・　どの大学でも、どの認証評価機関の認証評価を受けるのかを想定しながら、日頃からの自己点検評価作業を進めているのが現状だと思います。そんな中で、最近、公立大学協会が、大学評価・学位授与機構（の認証評価）廃止を前提にした動きを進めていることが気掛かりです。

○選択的評価事項に係る評価に対する要望等について

・　すでに選択評価事項として「研究活動の状況」「地域貢献活動の状況」「教育活動の国際化」が設けられていますが、必ずしも受審する大学は多くないというのが現状だと思います。今後は、選択評価事項を増やすのではなく、むしろ受審する大学を増やす方向を考えることが必要だと思います。

・　選択的事項の意味、役割、効用が不明。（本当に必要な事柄は本文に組込むべき。）

対　象　校

（大　学　用）

平成２４年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

貴校名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

今回、当機構の評価を受けられて、どのように感じられたか、１～11 の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものと記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に〇を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また、記述式のものについては、学校名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
回答例①　・・・・・・・・は、適切であった	5	4	3	2	1	3
回答例②　・・・・・・・・は、適切であった	5	4	③	2	1	

（回答できない場合）

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
・・・・・・・・は、適切であった	5	4	3	2	1	－

１．評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
① 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	5	4	3	2	1	

	ある	ない	
⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった	2	1	

→※⑤について、２とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が自己評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	2	1	

→※⑥について、２とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

２．評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、（１）自己評価、（２）訪問調査等、（３）意見の申立ての３項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（１）自己評価について

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた	5	4	3	2	1	
② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた	5	4	3	2	1	

	迷った	迷って いない	
③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	2	1	

→※③について、２とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

④ 貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、分かりやすい自己評価書を作成することができた	5	4	3	2	1	
⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった	5	4	3	2	1	
⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった	5	4	3	2	1	

→※⑥について、２又は１とご回答いただいた場合、どのくらいの文字数であればよいと思うかをご記入ください。

	参考にした	参考にしなかった	
⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他大学の自己評価書を参考にした	2	1	

・自己評価についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（２）訪問調査等について

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
①　訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	5	4	3	2	1	

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

②　訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	5	4	3	2	1	

→※②について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

③　訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く。以下同様。）が質問した内容は適切であった	5	4	3	2	1	
④　訪問調査の実施内容として、大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	5	4	3	2	1	

→※④について、２又は１とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑤　訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった ----------

5	4	3	2	1	

→※⑤について、２又は１とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑥　訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった ----------

5	4	3	2	1	

→※⑥について、２又は１とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑦　訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた ----------

5	4	3	2	1	

⑧　訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった ----------

5	4	3	2	1	

→※⑧について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であると思うかをご記入ください。

⑨　訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う ----------

5	4	3	2	1	

・訪問調査等についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（３）意見の申立てについて

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった	5	4	3	2	1	

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった	5	4	3	2	1	

以下は、<u>意見の申立てを行った対象校のみ</u>お答えください。

③ 貴校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった	5	4	3	2	1	

→※③について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

３．評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、（１）評価に費やした作業量、（２）機構が設定した作業期間、（３）評価作業に費やした労力、（４）評価のスケジュールの４項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（１）評価に費やした作業量について

＜作業量＞

	とても大きい←(5)	4	適当(3)	2	→とても小さい(1)	
① 自己評価書の作成	5	4	3	2	1	
② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査のための事前準備	5	4	3	2	1	
④ 訪問調査当日の対応	5	4	3	2	1	
⑤ 意見の申立て	5	4	3	2	1	

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想などをご記入ください。
①～⑤について、５とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。

（２）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

	＜作業期間＞ とても長い ← 適当 → とても短い (5) (3) (1)					
① 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	5	4	3	2	1	
② 訪問調査のための事前準備	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査当日の対応	5	4	3	2	1	
④ 意見の申立て	5	4	3	2	1	

・機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（３）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
① 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	5	4	3	2	1	
② 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった	5	4	3	2	1	
③ 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	5	4	3	2	1	

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（４）評価のスケジュールについて

	適当	適当でない	
①　自己評価書の提出時期（６月末）は適当であった （適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。）----	2	1	
②　訪問調査の実施時期（１０月上旬～１２月中旬）は適当であった （適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。）----	2	1	

・評価のスケジュールについてご意見、ご感想などをご記入ください。

４．説明会・研修会等について

認証評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。(⑧について、訪問説明を受けなかった対象校は回答欄に「－」をご記入ください。)

	強くそう思う (5)		どちらとも言えない (3)		全くそう思わない (1)	
① 説明会の配付資料は理解しやすかった	5	4	3	2	1	
② 説明会の内容は理解しやすかった	5	4	3	2	1	
③ 説明会の内容は役立った	5	4	3	2	1	
④ 自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった	5	4	3	2	1	
⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった	5	4	3	2	1	
⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った	5	4	3	2	1	
⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った	5	4	3	2	1	
⑧ 機構が行った訪問説明は役立った	5	4	3	2	1	
⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応）は適切であった	5	4	3	2	1	

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想などをご記入ください。

５．評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、（１）評価報告書の内容等、（２）自己評価書及び評価報告書の公表、（３）評価結果に関するマスメディア等の報道の３項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（１）評価報告書の内容等について

	強くそう思う (5)		どちらとも言えない (3)		全くそう思わない (1)	
① 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった	5	4	3	2	1	
② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	5	4	3	2	1	
③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった	5	4	3	2	1	
⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった	5	4	3	2	1	
⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度など）を考慮したものであった	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	5	4	3	2	1	
⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	5	4	3	2	1	

→※⑧について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が分かりにくかったかをご記入ください。

⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった	5	4	3	2	1	

（２）自己評価書及び評価報告書の公表について

	している	していない	
① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している	2	1	
② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している	2	1	

（３）評価結果に関するマスメディア等の報道について

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた	5	4	3	2	1	

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想などをご記入ください。

６．評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果･影響とに分けて質問しますので､それぞれお答えください｡(具体の活用例、改善例については、別途「７．評価結果の活用について」で質問します｡)

（１）自己評価を行ったことによる効果・影響について

	強くそう思う (5)		どちらとも言えない (3)		全くそう思わない (1)	
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた	5	4	3	2	1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた	5	4	3	2	1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した	5	4	3	2	1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した	5	4	3	2	1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進した	5	4	3	2	1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立った	5	4	3	2	1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進した	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進した	5	4	3	2	1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した	5	4	3	2	1	
⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した	5	4	3	2	1	

・自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想などがありましたらご記入ください。

（２）機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

	強くそう思う (5)		どちらとも言えない (3)		全くそう思わない (1)	
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる	5	4	3	2	1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる	5	4	3	2	1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する	5	4	3	2	1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する	5	4	3	2	1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進する	5	4	3	2	1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立つ	5	4	3	2	1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進する	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進する	5	4	3	2	1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する	5	4	3	2	1	
⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する	5	4	3	2	1	
⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する	5	4	3	2	1	
⑫ 貴校の教育研究活動等の質が保証される	5	4	3	2	1	
⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる	5	4	3	2	1	
⑭ 広く社会の理解と支持が得られる	5	4	3	2	1	
⑮ 他大学の評価結果から優れた取組を参考にする	5	4	3	2	1	

・機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連してご意見、ご感想がありましたら、ご記入ください。

7．評価結果の活用について

① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを５段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。

		非常に参考になった (5)		参考になった (3)		あまり参考にならなかった (1)	
課題	（記入例） 【基準６】卒業生のアンケート結果から見て、「外国語の能力」の達成度が十分ではない。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	「外国語の能力」の達成度を向上させるため、来年度から、カリキュラムの充実、学習環境の整備を行うこととしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

1 貴校の広報誌に評価結果を掲載する。　2 貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3 資金獲得のための申請書に記載する。　4 学生募集の際に用いる。
5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
6 その他（具体的に）
（　　）

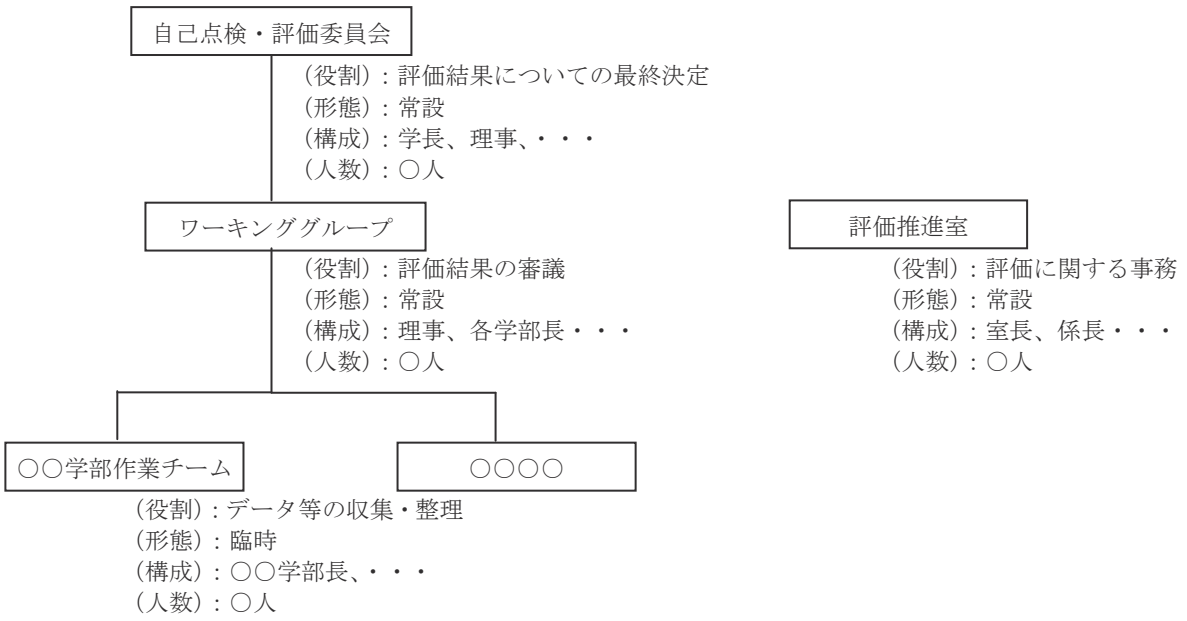
回答欄	

８．評価の実施体制について

貴校の評価の実施体制についてお教えください。今後の当機構の評価を、より効果的なものとするために参考とさせていただきます。

・評価（自己点検・評価、認証評価、国立大学法人評価等）を行うための実施体制について、その組織名称、役割、設置形態（常設・臨時）、人数構成等をお教えください。「例」を適宜参考にし、分かりやすくご記入ください。（以下の「例」は削除して結構です。）既存の資料がありましたら、それを添付していただいて結構です。

（記入例）



他に具体的な説明等がありましたら以下にご記入ください。

・評価の実施体制について、貴校が行っている方策・工夫等がありましたらお教えください。また、その方策・工夫等について良かった点、悪かった点等、その他ご感想についても併せてお教えください。

９．前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問にお答えください。（今回以前にも機構の認証評価を受けた対象校のみお答えください。）

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
① 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	5	4	3	2	1	
② 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	5	4	3	2	1	
③ 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	5	4	3	2	1	

→※①について、５又は４とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

→※②について、５又は４とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

→※③について、５又は４とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

１０．前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

前回の認証評価を受けた時と比較して、当機構の認証評価プロセスが改善されたかどうかについて、以下の質問に可能な範囲でお答えください。(今回以前にも機構の認証評価を受けた対象校のみお答えください。)

	非常に良くなっている (5) ←	4	どちらとも言えない (3)	2	→ 非常に悪くなっている (1)	
① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった	5	4	3	2	1	
④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった	5	4	3	2	1	
⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった	5	4	3	2	1	
⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった	5	4	3	2	1	
⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった	5	4	3	2	1	
⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった	5	4	3	2	1	
⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	5	4	3	2	1	

・前頁の項目以外で良くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

・前頁の項目以外で悪くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

１１．その他

・認証評価機関として当機構をお選びいただいた理由や、実際に評価を受けて期待どおりであったかについてご記入ください。

・その他、当機構の行う評価についてご意見等がありましたら、ご記入ください。

次の質問は<u>選択評価事項に係る評価を受けなかった対象校のみ</u>ご回答ください。

・選択評価事項に係る評価を受けなかった理由、選択評価事項に係る評価に対する要望（「研究活動の状況」や「地域貢献活動の状況」以外に新たに設けることが望ましい評価事項、評価方法、評価手数料等）等についてご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

評 価 担 当 者

（大　学　用）

平成２４年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

ご氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

今回、当機構の評価に携わっていただいて、どのように感じられたか、以下の１～８の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものと記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に〇を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また記述式のものについては、ご氏名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

	強くそう思う (5)		どちらとも言えない (3)		全くそう思わない (1)	
回答例①　・・・・・・・・・は、適切であった	5	4	3	2	1	3
回答例②　・・・・・・・・・は、適切であった	5	4	③	2	1	

（回答できない場合）

	強くそう思う (5)		どちらとも言えない (3)		全くそう思わない (1)	
・・・・・・・・・は、適切であった	5	4	3	2	1	－

１．評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強くそう思う (5)		どちらとも言えない (3)		全くそう思わない (1)	
① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	5	4	3	2	1	

	ある	ない	
⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった	2	1	

→※⑤について、２とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	2	1	

→※⑥について、２とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

２．評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（１）自己評価書、（２）書面調査、（３）訪問調査、（４）評価結果の４項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（１）自己評価書について

	強くそう思う (5)		どちらとも言えない (3)		全くそう思わない (1)	
① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	5	4	3	2	1	

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた	5	4	3	2	1	
③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	5	4	3	2	1	

→※③について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想などをご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点などがあればお聞かせください）。

（２）書面調査について

① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった ---------- | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった ---------- | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |

→※②について、５又は４とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

・書面調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（３）訪問調査について

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
①　「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	5	4	3	2	1	
②　訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた	5	4	3	2	1	

→※②について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が確認できなかったかをご記入ください。

③　訪問調査の実施内容として、大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	5	4	3	2	1	

→※③について、２又は１とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

④　訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった	5	4	3	2	1	

→※④について、２又は１とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑤　訪問調査の実施内容（大学関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった ----------

5	4	3	2	1	

→※⑤について、２又は１とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑥　訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた ----------

5	4	3	2	1	

⑦　訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった ----------

5	4	3	2	1	

→※⑦について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であるかをご記入ください。

⑧　訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった ----------

5	4	3	2	1	

・訪問調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（４）評価結果について

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	5	4	3	2	1	
② 基準１から基準 10 の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった	5	4	3	2	1	
③ 評価結果全体としての分量は適切であった	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった	5	4	3	2	1	

・評価結果についてご意見、ご感想などをご記入ください。

３．研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
① 研修の配付資料は理解しやすかった	5	4	3	2	1	
② 研修の説明内容は理解しやすかった	5	4	3	2	1	
③ 研修の内容は役立った	5	4	3	2	1	
④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った	5	4	3	2	1	
⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった	5	4	3	2	1	

・研修についてご意見、ご感想などをご記入ください。

４．評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、（１）評価に費やした作業量、（２）機構が設定した作業期間、（３）評価作業に費やした労力、（４）評価作業にかかった時間数の４項目に分けて質問しますのでそれぞれお答えください。

（１）評価に費やした作業量について

＜作業量＞

	とても大きい ← (5)	4	適当 (3)	2	とても→小さい (1)	
① 自己評価書の書面調査	5	4	3	2	1	
② 訪問調査への参加	5	4	3	2	1	
③ 評価結果（原案）の作成	5	4	3	2	1	

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想などをご記入ください。
①～③について、５とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。

（２）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

＜作業期間＞

	とても長い ← (5)		適当 (3)		→ とても短い (1)	
① 自己評価書の書面調査	5	4	3	2	1	
② 訪問調査への参加	5	4	3	2	1	
③ 評価結果（原案）の作成	5	4	3	2	1	

・機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（３）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

	強く そう思う (5)	←	どちらとも 言えない (3)	→	全くそう 思わない (1)	
① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	5	4	3	2	1	
② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった	5	4	3	2	1	
③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	5	4	3	2	1	

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想などをご記入ください。

（４）評価作業にかかった時間数について

評価作業にかかったのべ時間数（部会、訪問調査への出席を除く）について、以下の項目ごとに概数でお答えください。

※１校あたりではなく、全体でかかった時間をご回答ください。

①	自己評価書の書面調査	およそ	時間
②	訪問調査の準備	およそ	時間
③	評価結果（原案）の作成	およそ	時間

・評価作業にかかった時間数についてご意見、ご感想などをご記入ください。

５．評価部会等の運営について

評価部会、専門部会の人数や構成、運営について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった	5	4	3	2	1	
② 部会運営は円滑であった	5	4	3	2	1	

・評価部会等の運営についてご意見、ご感想などをご記入ください。

６．評価全般について

評価を行ったことによる効果・影響など評価全般について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	4	どちらとも ←言えない (3)	2	全くそう →思わない (1)	
① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う	5	4	3	2	1	
② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う	5	4	3	2	1	
③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	5	4	3	2	1	
④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	5	4	3	2	1	
⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	5	4	3	2	1	
⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった	5	4	3	2	1	

・評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想などをご記入ください。

７．前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

	強く そう思う (5)		どちらとも 言えない (3)		全くそう 思わない (1)	
① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	5	4	3	2	1	

→※①について、５又は４とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	5	4	3	2	1	

→※②について、５又は４とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	5	4	3	2	1	

→※③について、５又は４とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

８．その他

・その他、当機構の行う評価についてご意見等がありましたら、ご記入ください。

次の質問は<u>選択評価事項に係る評価を担当されなかった方のみ</u>ご回答ください。

・選択評価事項に係る評価に対する要望（「研究活動の状況」や「地域貢献活動の状況」以外に新たに設けることが望ましい評価事項、対象校が有する目的の達成状況の判断を示す以外に実施することが望ましい評価方法等）等について可能な範囲でご記入ください。

ご協力ありがとうございました。